女學雜誌

第二百七號目次

社說　明治女學校生徒に告ぐ、目下の女子敎育法
論說　ゼンチス、ミルラー夫人の改良服（新戸邊稻造）〇女子盍ぞ和歌を學ばざる（其二）（雲峰子）
批評　存娼實際論〇經濟及統計〇躰育及び食物改良〇善にも弱く惡にも弱し〇農哲林遠里氏
雜錄　閨秀小說家答（若松しづ子）〇モロカイ島の新ダミエン〇政治家は君子ならざる可らず〇獨身者の弊〇きよめぬ庭（洒落齋主人）
寄書　五長（叢菊野史）〇河野梓子傳〇漫言一則（漁山人）
開書　東の都淺草はしのほとりに住ませ玉ふ章子の君に（郁の山人）〇諸孃の履歷を問はん（尙白生）〇交詢
時事　女子高等師範學校長中村敬宇先生を訪ふ〇師範學校女子部內の基督信徒〇慈善家モリス氏夫婦〇怪文字〇新聞紙の不德〇咄々怪事〇日本の婚姻に對する英國法庭の判决〇廢娼記事
女報　女子師範學校長〇神田高等女學校東京禁酒會〇成立學舍女子部〇跡見女學校〇高等女學校〇其他數件

Preconceived opinions, foregone determinations, are all I have at this hour to stand by; there I plant my foot.—George Eliot.

本號には
敬宇中村先生を訪ふの記
慈善家モリス夫人肖像
余が女子敎育に對する意見

ダミエンに代る秀麗一女子
單身奮つて癩病島に入る
尤も驚歎すべき女丈夫の傳
掲載せり

四月五日發兌　第二百七號　一冊定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 207. 5TH. APRIL, 1890.

EDITORIAL:—An Address to the "Meiji Gakko" Pupils. The Present Educational System.

LEADING ARTICLES:—A New Costume proposed by an American Lady. Why do not Girls study Japanese Poetry?

CRITICAL NOTES:—

MISCELLANEOUS:— Answers received from Lady Novelists (*Continued*). Miss A.C. Fowler, a Successor to Father Damien. Politicians must also be Moralists. Disadvantages of the Single State. Facetie.

OPEN LETTERS.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

Mrs. Mary Maurice, wife of Mr. Maurice of Philadelphia, has lately arrived on a visit to Japan. Her portrait is in this number.

第二百六號目次

社説 君子は器ならず○廢妾論、廢藝妓論

論説 ベルッ氏の存娼論を駁し且つ廢娼論に付きて一言す（イーピ）○女子盍ぞ和歌を學ばざる（雲峯子）

批評 新譜四則

雜錄 閨秀小說家答○和歌の浦波○羅馬は一日にして成らず○命は食にあるの說○先づ人を信ずべし○きよめぬ庭○都の花信

小說 野邊遊び

寄書 再び「つぼみ」雜誌を讀て（雲峯子）○歌數首○小品漫筆十種

開書 常盤木千代子に答ふ○交詢

時事 博士外山正一先生の演說○上毛の青年○女學生の風聞○新聞紙に四種あり○印刷局の勞働時間○勞働保護會○アッケルマン孃滯在中働きの報告○廢娼記事

女報 女子高等師範學校○岩村夫人○供奉の女官○婦人教會堂○札幌女學校○秋田尋常師範學校○全國教育者大集會

WOMEN IN JAPAN.

(1) *A Committee of gentlemen and ladies who were entrusted with the continuation of Miss Ackerman's Temperance work in Tokyo, met together on the 29th of last month, and organised a new Temperance Society. The meeting was led by Mr. Nakagawa, interesting addresses were made by Mr. Soper and Mr. Andō, Consul to Hawaii; and the meeting closed with the election of officers consisting of both gentlemen and ladies, and the distribution of the new rules.*

(2) *Prof. Toyama of the Imperial University addressed a large audience at the Kosei-kwan on the 22nd of last month. He proposed that a petition be sent in to the Minister of Home Department concerning the prohibition of concubines and of restricting the liberty hitherto enjoyed by the prostitutes. A few details in regard to the latter proposition are as follows: 1 That the pictures of prostitutes should not be sold on the streets and that their parts should not be played on the stage. 2 That advertisements should not be made about the prostitutes or the houses to which they belong. 3 That the custom of asking persons of office and rank to the opening of these public places should be discontinued. 4 That prostitutes should not be brought to public notice by means of a distinctive costume and head-dress. In short, he demands that such characters should be kept in strict privacy whether they are licensed or not.*

(3) *Prof. Kato who has lately written on the Prostitution, has in his last number of "The Natural Law," an article on the prohibition of Concubines.*

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

慈善家モリス夫人肖像

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百七號
明治二十三年四月五日發兌

社説

明治女學校生徒に告ぐ、

目下の女子教育法

左の一篇は余が明治女學校に於て演述したるものゝ筆記なり、蓋し教務上來學期より多少の改進を施すに付豫じめ其大意を申聞かせたるものにて、事元來一私立女學校に關するの説なりと云へども、目下の女子教育法全躰に對する愚見は大率ね如此なるをもて、則はち別題を添えて之を公衆に示し、謹んで同好の士の批評を煩らわすと云ふ。

柳子厚が郭橐駝の傳

に、昔し巧みなる植木屋あり其養ふ所ろの樹木一として碩ひに茂らずと云ふとなく、之が爲に長安の豪家富人皆な彼を爭ひ迎へて樹を種えしめたりと云ふ事あり、或人之を奇とし其何に故に斯く上手なるやの理を問ひたるに、橐駝の答ふるやうは、余れ能く木をして壽ならしめ孳からしむるに非ず、唯だ木の天に順つて其性を致さしむるを以ての故のみ、凡そ植木の性、其本は舒んとを欲し其培ひは平ならんとを欲す、故に蒔くときは子の若くし置く時は棄てしが如くし、之を放任して動かすとなくんば、其天なるもの全ふして其性を得ん、余は只だ其長を害せざるのみと云ひたるよし。人を育つるも亦た植木を養ふ樣なるものにて、其性に隨つて之を導びかざれば決して完全の人を得るものにあらず、徒らに苦勞し枝を撓め幹を曲げ朝夕コセ〳〵として手を入れ、只だ己が好のやうに爲られば成らぬやうに世話を焼く時は、いぢけ乍ら小森としたる盆栽の如きものは出來ることなれども、亭々鬱々たる大樹巨木には爲るまじきものぞ。左れば教育をば英語にもエヂウケーションと申して、引出す、開發する、などの意味を示すことなり。それ故へ、

古來の大教育者

の教へを鑑みるに、皆な人の性を伸すとを專一としたり、孔子の門弟は三千人ありし由、而して其中ち六藝に達するもの七十人ありしと傳ふるが、即ハち七十人は銘々の長所を伸バして人々一廉の人物となりしなり。又クリストの高弟に十二人ありしが、一々其性質を異にし、或は剛忠なるものとなり、或は溫厚なるものとなり、或は深刻なるものとなり、夫々に異なりたる德を發達したり。實に大先生の感化は春の如きものにて、松は松、梅は梅、櫻は櫻、無花果は無花果と、それ〴〵の性を伸し知らず〳〵に生ひ立たするもので、决して窮屈のものに非ず、昔し堯舜の天下に於ては、百姓上みに皇あるとを知らずして万人皆な獨立獨歩すると思ひ、則ハち天下は無爲にして化せりと云ふとなるが、眞誠の教育も亦た如此きもの也、恭生は教師あるとを賴みとせず、規則に制せらるゝとを慍うしとせず、自己獨歩して自づから進む心地になり、常に學を樂んで愉快に上達するものなり、教育此に至りてこそ上乘に達すと得言ふとなれ。故に眞の教育は人の性を伸バし其心中の天眞を發達せしむるものにて、フレーベルが言ふ所ろの内なる人を外に導びくと云ふ者即ハち此れにてあるなり。此故に、

女子の敎育とは

女子の天性を伸ばすとにて、女をして其の當に有るべきの女たらしむる譯なり、然るに今日迄の女子は只だ家に閉居して外に出でまじきものと定まり、餘まり學問をせずして只だ割烹ぬひ針の事のみに盡力すべきものと定まり、苟且にも口を外事に出さず只管ら男子に屈服すべきものと定まり居りたるとなるが、扨て此等の定めは女子本然の天性なりやと云ふに、大凡そ今日天下の大道を知れるものは「左樣なり」と答ふるを得まじきなり。古しへ臣下は只だ君主に屈服すべきものと定まり、兵馬戰爭に盡力すべきものと定まり、苟且にも長上の政事に口を出すまじきものと定まり居りたれども、既に今日文明の世となりては、我等が天皇陛下も憲法と云へる大法を定めさせ玉ひ、四民をして政事に參與せしめ、銘々自主の權あるとを得せしめ玉ふとさなれるにあらずや、左れば昔しこそ男子、女子に向つて種々の窮屈なる制限を賦定したれ今日は亦た自己が自由を得たる如く女子にも亦た自由を得せしめずんばある可らず、女子は斯くすべきものなり然して决

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

して漸々すべからずと斷定し、陛下の法律以外に更に一種の嚴酷なる法律を布告するは極めて不埒なることゝ申すべきなり。　成程、女子の爲すべき事は必らず男子と違ふべき筈なれども、扨て何如やうに亦何如ほどに違ふかの事は何人も未だ明知し得ざるの事なり、然るに昔し女は漸々にてありしゆへ今も亦た云々(しかじか)にてあれと一圖に定むるは高慢の過たる處置なり、女子が天性の何如なるかは之を自由に發達せしめざれば分るまじ、大石の下に生へし松がいぢけたりとて、松はいぢけ可きものと云ふことを得ず、從來女子を束縛して其のいぢけたるを見、之を優美なり溫和なりと稱し、而して女子は永久に斯るものにてあるべしと斷定するは彼の植木屋にも及ばざるの見識なり。故に女子をして其天性を伸し眞の女性たらしめんとするには、之を自由にして其性を發達せしむべし、天性の案內は今の日本の敎育家よりも利巧なるものにて、之に放任するも決して心配の入らぬ者なり、若し實に女は內に閉居すべきものならんか、亦必らず男子に屈服すべきものならんか、果して是れ天性なりとせば此の天性を曲げんとするも天性は必らず曲らるゝことなく永久其通りにてあるべし、若し徒らの事にて直ちに曲げらるゝならば之れ眞の天性にあらずして假りの習慣性なりし也凡そ眞の天性は決して左樣に薄弱なるものにあらず、左樣に強て保護監督すべきものにあらず、女子の優美內瑕なると、其天性ならんか、然らば其天性の儘に放任するときは即はち其天性の如くに發達すべし、何も苦慮するには及ばぬとなり。今の敎育家が、始終女子を取締られば直ちに我儘になるやうに思ふは抑も天性なるもの丶力を知らざるに因る、優美なると溫和なると女性の本質なるか、左らば之を左程に制限せずとも其本質は自から現はるべし之を放置するも其天眞は爛熳として開くべし櫻の春に至れば自然に咲ふが如し。故に吾黨の女子敎育法は女子の天性に隨はんとするにあり、而して女子の天性は之を自由の下に置て初めて認知し得べしと信じ、勉めて窮屈なる制限を設けざるにある也。故に

男女同權論にも家政論にも

何れにも贊成せず、恰かも中立するものなり、女子に向つて同權論を吹込むとも爲さず、左りとて之に反對もせず、亦た女は家政の事を本職とすとの論にも贊成せず、然し乍ら家政を忽諸にするの議論には尙更同意せず。吾黨は常に思ふなり、男女は必らず天職を異にし各自に相違したる責任あり、而して政治上にも社會上にも家政上にもそれ〴〵男女の分勞すべき仕事あり、男女は各其の長所に隨ふて其用を爲すべきなりと。世人女子を壓制するが故に、其反動として過激なる女子も時あつてか出ることなり、併し乍ら初めより是を自由にせば、女子は決して男らしき事を爲すまじ男も亦た女らしきことを爲すまじ、即はち男は男らしく女は女らしくなるべし、故に然あらせんには男女を各自由にして其天性を伸ばさしむるにある也。左れば吾々は女子の敎育を「婚姻の爲の準備」の如くに思ふものにあらず、婚姻は女子一生の大目的なれども、女子の大目的は尙ほ其外にもあるなり、男子に向つて婚姻の爲にのみ敎育を施こし難きが如く女子も亦た婚姻の爲にのみ敎育すべきものにあらず、其敎育は主として之を眞の女たらしむるにあり而して眞の女たらしむるときは即はち婚姻の準備は自然に其中に備はり居ることなり。然し余が今日迄に研究し且つ今日確信する所ろは、女子は到底妻母となるべきものなり、即はち一人の妻母となるか、一國の妻母となるか、天下の妻母となるべきものなり、一人の妻母となりては、能く夫を助け子を敎ゆべし、一國の妻母となりては慈善の事看病の事經濟の事美術の事敎育の事傳道の事などに盡力すべし、天下の妻母となりては國と國との戰爭を防ぎ万國の平和を維持し天下に一視同仁の愛情を滿たすべし、戰場に臨みては劍戟ひらめき砲丸とゞろくの間だに人の傷に接吻する事を爲すべし、政黨の爭同胞をして讎敵たらしむるの間だには靜かに國民の炎はりを溫ため樂を奏し齒を拷き人の衷情に訴へて之を和らむるの事を爲すべし、貧富懸隔！貴族平民天地の如くに隔たるとき何處にも春を齎らして誇るものを悔ひしめ難めるものを慰さむるの事を爲すべし、此等の事は眞人の爭ひを散らし、子を愛育するの事と同情同元に發し、たゞ其事に大小遠近の差別(けぢめ)あるのみなり、何れにしても其の妻たり母たるのことなり、故に余は女子を婚姻の爲に敎育せず然れども母妻たらしむることを以て其天性を開發すると思へり、而して母妻はたゞ一家一人の母妻のみと限るとなし其人の才量何如にしたがひ、或は一人の母妻となり、或は一國滿天下の母妻たれと云ふ、ビクトリア陛下は英國民の母なり、ウイラード女史は天下の妻なり、ハンナモアは貧民の母なり、エロイズは一人の愛妻なり。故に、

女子敎育の科目

は、今日の女子が消化し得べき總ての學科を敎ゆるの中にも、特に美術上職業上道德上の科目を多くすべし、而して之を學ばしむるに只だ初めより一家の妻たるとをのみ目的とせしめず、寧しろ眞の女、圓滿したる女性となることをのみ志願させしむべし、然るときは一家の良妻賢母たる者も出來得べく、亦た万人億兆の爲の良妻賢母たる者も出來得るなり。扨て

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治女學校

は何の爲に起りしかさ云ふに、基督教界に於ける女學校は主も宣教師の支配する所ろさなり、絕へて日本的ならざるを一つ、一汎世間に於る女學校は德育の點及女子教育の目的に於て吾黨さ意見を異にせるを二つ、及び眞誠の社會改良さ眞誠の道德奬勵さ眞誠の國本養成さは全く眞誠の女子教育に基ひすさ信じたるを三つにして、以上三箇の理由ありしか爲めなり。此中第二第三の事は前に述べたるの意見により大抵推察し得べしさ思へば之を畧し、其の第一の理由を少さか申し置くべし。元來日本近代の教育は主も外國の眞似を爲したるものゆへ、其學科にも洋學が過分に多きをなるが、取分け女子教育は、元さ、

宣敎師諸君のみの盡力したる者

にて最初は宣教師諸君の外に女子を教育したるものは日本國中にあらざりしをなり、即ハち政府に於て女子師範校を設立あらせられぬ前、民間に於て一の私立女學校も起らざりし以前に既に宣教師諸君は文明風に女子を教育したり、夫故へ今日に至る迄で宣教師方の事業中尤も發達し尤も成効したるものは即ハち女子教育にして、今の女子教育も多くは宣教師方の教育法に倣ひて出生したる程のものなり、夫故惣べての教育に洋學が過分に占領したる中にも、女子教育には特に洋學が過分にてありき。而して宣教師方の女學校を卒業したるものが先づ女學生の雛形さなりしゆへ、洋語を話すと、洋文を書くとが女學生第一の長所さなり、后進の女生も然あらずしては何んさなく恥かしきやうに思ふにより、教育者も自然に其需要に應ずるようになり、遂に女子教育は洋學過分の教育中特に洋學僻多きものさなりたり。特に洋學過分の事のみにあらず、宣教師方の女子教育は其傳道の一方便なるを以て、學校に於て聖書を講じ之を暗誦せしむるの事格外に多く、隨つて卒業生は殆んご女傳道士の如きものさなり、普通に女性を開發するの目的に適はざるをも少なしさせず。又校長外國人にして氣質上の感化自づから外國に僻し、所謂る日本國民たるの國民志想十分に發達せず、自然に外國婦人の如き狀態に陷いり易きの弊も亦少なしさせず。左りさて吾黨は、彼の德育の基本流行さ共に七面鳥の如くに變化するの教育、もしくは人間さ云へる大志想を有せず女子を器械の如くにして箱造りにするの教育に對しては尙更ら贊成するを得ず、一方には宣教師諸君の教育法に同じがたく、亦た世上普通の教育法にも贊成しがたく、則はち中立して信ずる所のまゝに教育せんさて、遂に去る十八年此明治女學校を創立したるを也。故に明治女學校は、

一の宗派に屬せず

宗教に於ては基督教を信ずる人の手に屬すれども、何等の宗派にも屬せず、故に無論何の傳道會社にも屬せず、亦た、

外國人の補助

を毛頭も希望せず、只管ら日本人の手を以て日本的に女子を教育せんとを欲したり。　而して德育の基礎を基督教に置くさ云へども、學科目中に聖書を加ふるをなく、平常に基督教を講ずるをなく、生徒に向つて直接に傳道するを少なし、即はち宗教上の信仰を自擇發心に任せ毫末も之を强ゆるをなく、たゞ教員の感化さ精神上の修養さを專一にせり、日曜日に於て安息日學校を開き此に於て純粹に聖經を講ずさ云へども聽聞は生徒中の有志の者に許し劃然平常の科目さ別にせり、之れ必らずしも宗教傳道を輕んずるにあらず、如此くするが即はち眞誠の傳道にして且つ眞誠の德育なりさ信ずるが故なり。又英學の分量の如きも、最初より之を少なくし、且つ年々に減じ、追々に國文の科目を增したり、吾黨は英學過分の弊を歎じて此校を創立せしが故に、無論英學の時間を大に少くしたり、左れど亦た保守論の人の如くに之を少くするを能はず、此點に付ても亦た中立したり、益し、

英文學は大なる文學なり

外國文學中、尤も謹厚敬虔なる文學なり、純潔の思念、雄大なる理想其中に充滿す、是れミルトンの文學なり、ジョンソンの文學なり、ボルク、カーライルの文學なり、バルンス、ウヲヅヲルス、エマソン、ブロウニングの文學なり、之れを日本文學に比較するに、其の純潔雄高なる處ろ特に優れたるものあり、宇宙間の大なる存在者……上帝を奉ずるの處ろ特に秀でたるものあり、故に殘念ながら常に有るべきよりも稍や多く其科目を學ぶを益さなし、當分の中ち少さか時間を增し置かざるを得ず、故に宜教師方の如くに之を多くするをにも不同意なれども亦た極端なる保守論の方々の如くに迄で之を少くするを能はず、故に此點に於ても中立なり。　されば、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

明治女學校は孤立の學校なり

基督教界に對しては其純粹なる仲間にあらず、世上に對しては尋常の友人にあらず、男女同權論者にも同意せず、家政論者にも贊成せず、信徒は之を見て世俗的なりと云ひ、世人は之を見て耶蘇的なりと云ひ、古風の人は之を目して過激の女權論主張者と云ひ、女權論者は之を目し反つて因循なりと云へり、左れど明治女學校の天職は其中間にあるに在れば、寂然孤立するとも悲しきことにあらざるべし。以上の事は、舊るき生徒諸子は十分に承知せらるゝものなれども、近來入校の方もあるゆへ一應申置き、年來の經歷と多年の志願とを一層明らかになし置くものなり。

扨て、

來學期より一段の改進を爲すべし

第一には英學の時間を一層少くし、國文の時間を一層多くすべし、之は段々に左樣に進むことにて年來漸次に其方向に進步し來りしことゆへ今更ら辨解を要すまじ。斯て豫科生は惣躰の學科一日に四時間となり、本科生は三時間となるべし、而して本科に入りてより、別に家政科と專修科とを置き、日々二時間を加へ合して一日五時間とすべし。家政は裁縫料理其他一家の家政に關することを敎ゆるものにて、卒業后直ちに家を理さむるに適せしむ。專修の科は一藝を敎ゆるものにて、普通科卒業の后ち獨立自活することを得しむ、而して其科内に英學、國文、音樂、畵學、裁縫女禮、速記、師範の七科を置くべし。左れば豫科二年を畢り、本科に入り三年修學の間だに、家政を兼ね學ぶものは卒業后直ちに一家の良婦人たるべし、專修科を兼ね學ぶものは一藝の獨立婦人たるべし、彼の高等科三年は元の如くに存し、普通科五年を畢りたるものゝ更に修學する所ろとなす。左れば十三にして入學し、十七、業を卒へて直ちに家を持つか、更に三年高等の學を修むるか、若くは其時より獨立自活するか、何れにせよ此皆な諸子が擇ぶ所ろに任す、明治女學校に諸子をして自由に擇ぶことを得せしむる總ての科目あるに至りたるは祝すべきと也。扨て專修科中、

師範科

の一つは特に諸子が注目すべきものなり、此科を兼學ぶときは五年卒業の后ち、小學校の教師たるに適するものあるが、抑そも小學科の教師には男子よりも女子の方寧しろ適當すると思はるゝ也、小供は本來女子の保育を受くべきもの歟、小學の頑是なき子弟は、男子教員に對しては隨分八釜しく言へども女教員に對しては甚はだ靜かなり、男女の教員を合せ用ゆるの小學校を參觀するに女教員受持の教場は甚はだ靜溫なり、子供も其女教員の信切と綿密と品行とに服し男子教員に對するよりも至つて溫和しきやうなり、即はち小學校の教員には女子の甚はだ適應するを思ふなり。又女子后ちに一家の妻母となるにも若くは一國天下の爲めに盡力するにも、先づ教育の事に經驗するは極めて利益あることなり、今の母は毫も子供の教へ方を知らず之により其子いよ〳〵惡しくなり、國民久しく上達することなし、然るに學校卒業后二三年親から子供の世話を爲し實地に其教育を行ひ見るは、后日の爲めに尤も効能あることなり、故に女子が后來何如なる事に盡力するにも先づ數年間小學校子弟の教育を試むることは何れにせよ有益至當の事なり。更に亦小學校の教員となることの如く眞に女子の地位を高むるに有効の事は他に至て少なし、元來今の女が連に演説を爲し議論を以て女權を擴張せんとするなどは甚はだ無益なることなり、余は之を惡しき事と云ふに非ず効能の之なき事と云ふなり、元來女子の今日世より卑しまるゝことは、別段明白なる理屈のありての故に非ず、但だ多年の習慣と感情とに由ることなり、然るに理屈に由るにあらざることを理屈を以て解散せんとし、元と感情と習慣とに由るものなるをいよ〳〵其の感情を破るの如き處置を爲すは蓋し賢こきの處置と云ふ可らず、左れば眞に女權を張らんには女子が其天性の美を現はして、ホームを美しくし、又國及天下に女性の優質を行はれしむるにあり、而して之よりも廣く且つ遠く効能あるの女權擴張方は即はち小學校の女教員となるに在る也、凡そ教師を重んずるの心は何人にも之れ有りと云へども、幼けなき時の師匠に對しては一種不可言の味ありて、特更に之を重んずるものなり、吾等今日迄數十人の教師に教を受たれども、幼時句讀の師に對するの感情は其后の幾多の教師に對するの感情と自から異り、心に徹し骨に刻まれて決して忘れがたく、父母と、父母の鄉と、幼時の師匠とは、終身我等の一生に深刻せられてある也、故に此の幼時の師匠をして女子が小學校の教員たることは、幼年童子の頭腦中に女子を崇敬するの念を銘印することにて、此の幼年男子は長じて後ち久しく此感情を失はざるべし、之れ即はち女子の地位を高むる最良の法方にして若し小學校に女教員甚だ多あらば、第二世后代の日本男子をして惣べて

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女子に對し敬意を懷かしむるに至るや明白なり、米國に於て女子が優待せらる元因の一は即はち是なり、彼の國小學校の教員は過半女性にてある故也。左れば女子が小學校の教員たるとは、第一甚はだ適當したるとなり、第二甚はだ有益なるとなり、第三女備全躰の爲めに有効なると也、夫故へ諸子が特に之を重んじて此科に深く注目さるゝとを希ふ。又た

家政科及び薙刀

の事に付きて更に注意を引くべし、家政は一家を理むるとの爲に大切なるのみにあらず、女性本來の綿密、忍耐、無名譽勤勉、等の美質を養成するものゆへ、分けて忽諸に爲すまじきの科なり、從來の料理方ぬひ方家政取締方等を學ぶとは勿論、追々新工夫をして種々の改良法を研究するやうに致すべきなり、發明は理化學の上にのみ限らず、台所元、洗濯の仕方、帳面の付方等にも多くの發明すべき領分あり、而して此領分は未だ他の發明家が手を着けざりし領分なり、之を研究工夫するの愉快亦た尋常にあらず、今后一層之に注意して深く之を味ひ學ばんとを勸告す。中にも塾生の諸子は、從來すでに自から賄部を監督して其經濟を取扱はれたるとなるが、此后は一層精密に監督を爲し、且つ委員の方々は毎日三十分づゝ相會して、物價の事、料理の事、計算の事などを辨ぜらるべし。亦た躰操の事に付きては從來も色々さ工夫し、今日にては洋風の躰操を用ひ居るとなれども、今后は薙刀の一科を加へ、先づ有志の人々より試ましむべし、薙刀にも種々の派あるとなるが、此校にては主も北辰一刀流を用ゆべし、運動の爲にも、氣節の爲にも、亦た女子の風采の爲にも其効能莫大ならんさ信じ居るとなれども、未だ慣れぬ先より諸子全躰をして學ばしむるとを欲せざるに付き、先づ有志の人々丈けにて初むべし。　元來運動の事に付きては、明治女學校は決して强迫制限を爲さず、凡そ活潑に騷ぐとは年少きさきの天性なれば、諸子が自由に運動するとを決して制するとなし、寧ろ一層活潑に運動せらるゝとを所望するほど也、世には女が活潑に運動すればヲテンバになるさ思ふものあり、之亦た大なる誤解にて人の天性を知らざるものなり、男子にてすら遊ぶさきは隨分亂暴なるものが式に臨めば儼然さして紳士たるものなり、即はち遊ぶさきに騷ぐとは其の亂暴なるにあらずして天性の運動を爲すが故なり、夫れ男子にてすら其騷ぐに關はらず亦た謹しみて紳士たるとを得るに、女子何んぞ運動の時に自由に動きたるを以て式場に出でゝ貴婦人たるとを得ずさ云ふの理あるべき、如此き心配も亦た天性を重んぜざるの臆病なり。夫故諸子が自由に運動するとを要む、運動は決して行儀を惡しくするものにあらず、反つて之を善くするもの也。諸子は始終女禮を學ぶとなるが、女禮の先生は常に諸子に教へて言はるゝならずや、禮は身態に宜しきを得せしむるものにて、只だ靜かにせよさ云ふものにはあらず、走るさきにも、倒るゝさきにも、遊ぶさきにも、其身形（みなり）が節を得て見惡からぬやうに、身態（みぶり）を慣らすが即はち女禮の極意ならずや。故に薙刀に達すれば其身態は矢張り女禮に適ふものさなるべし、西洋の躰操に達すれば亦た其身態は女禮に適ふものさなるべし、故に女禮を學ぶとさ、遊ぶとさ、薙刀及び躰操を爲すとさ決して矛盾せず、亦た惣べて活潑に運動するとさ、女らしくヲトナシクするとさ、決して矛盾せざるものなり、諸子決してビク／＼とするとなく、自由に運動して身躰を丈夫にし玉へかし。

試驗

の事に付きては從來も甚はだ緩やかに爲したるが、此后さても左樣なるべし、只だ師範科丈けは后に東京府の撿定を受くるとのあるゆへ、何分吾々が思ふやうにのみも參らず少しは暗誦もせねば成るまじきが、常に申す如く、暗誦をしたり、又た試驗の爲にさて特更に勉强するは當校の禁物なり。凡そ書物を何卷暗んじて悉さく覺へたりさも、其何卷は世にある數百万卷の何万分の一ぞや、左れば暗誦するよりも讀む力を養ふとが大切なり。然し亦た讀む力よりも一層大切なるは考ふる力なり、何事によらず自から篤さ考へ、何にいたせ一つ宛自分の說を立てるやうに致さるべし、下讀を爲るにも、兎に角自己の見解を定め、而して后ち教塲に出でゝ教師の說を聞き、己れの說さ較らべ十分に討論を爲さるべし、英學も國文も日に一時間づゝゆへ、よく／＼自分で下讀を爲し置れば進歩特の外速かるべし。扨て左樣に自から力を養ふやうに致させたきが本校の希望なれば、試驗の折り諸子が覺へて居るか否やを見て點數を附する如きとは第二の事さし、先づ何如ほどに諸子の讀書力が上達したるか、又何如なる考へ方を爲さるゝかを試むるやうに致すゆへ、試驗の爲に用意するなどは全く無用なり、たゞ日々事に臨みて能力を開發するやうに爲さるべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

マリア之友、及文學會

の二會は、今后いよ〳〵隆んにせられよ、教師に對しては諸子之を學び、此等の會に對しては諸子自から研究せし處ろを發揚し、若くは其力を實用せらるべきこと也、即はちマリアの友に於ては餘暇を以て編物、縫物、洗濯、チシ繪、狀袋張り、などをして金を溜め之を慈善の事に用ひ、時には病院を見舞ひて病人を慰さめ、又た貧しき人を救ひなどせらるゝとに、今后一層盡力し玉へ。文學會に於ては、文章、演說、討論、等をせらるゝと元の如くにて宜し、たゞ月々雜誌を編輯する事に一層盡力し、諸子がハゲミ又た樂しみとして、月に一册は必らず寫し了りて全校の人々に見せるやうに爲さるべし。此二つの會は依然獨立して學校の者とならざるが宜しけれども、學校にても亦出來る丈け補助すべし、女學雜誌社よりは總ての新聞雜誌新書等を文學會へ續々に貸與せらるゝ由なれば、毎度申す如く暇ある時は淸き新聞紙を讀みて時事の大要を知り、亦た新書を讀みて互ひに批評をせらるべし、此等は皆な

學科外の實教育

とも云ふべきなり。又今后毎金曜日の夕方は教師及生徒の懇話會を催うし、打くつろぎて文學上社會上等のお話しを爲し、問答談話中に諸子の思考力を啓導すべし。又た博覽會の如き折々の公會あるときは教師、諸子を同行して之を見、歸校の上諸子銘々の觀察せし處ろを聞き其批評力を開發すべし。又た兼てより備へ置く「忠告箱」の內に諸子が學務上教制上に關し意見あるときは、遠慮なく認して投函あるべし、之れ亦た諸子が學校管理法に對する意見を養ふの工夫ある上に、吾等は自から欠點を知るとを得、諸子は亦愛校の心を伸るを得て、双方共に喜ぶべきとなる也。

明治女學校の本願

は諸子をして自由に發達せしめ、而して諸子が各自其好む所ろの途に達し、天賦の性を伸して、夫々に完きの女性とならそゝとを望むにあり。故に諸子が意見も、風采も、職業も、地位も皆な銘々に適する所ろの儘にして絕へて一形一模範たるとを願はず、左れば卒業するものは、或は直ちに良妻賢母となり、或は女教師となり、或は速記者となり、或は文學者、小說家となり、或は信徒となり、或は不信徒となるなど、皆一々其尤とも好む所ろ即はち其の尤とも適する所ろに達せんとを熱望す、毫末も强ゆる所ろなし、厘毛も束縛する所ろなし、然れども只だ一事あり、此事たる全校の諸子に貫徹し、一人も遺らず悉とく然あらんとを必要とするものにして、苟くも之に違ふものあらば決して本校の生徒にあらず若亦之に不同意の人あらば自ら退校せらるゝの外なし、其事たる即ち明治女學校の精神にして而て明治女學校が總ての人間なるものゝ精神なりと信ずる所ろのものなり。そを何んぞやと問はるゝものもあるまじ、然れども繰返して申すなり、諸子は必らず淸くあれ、必らず正しくあれ、必らず善くあれ、而して亦た他を愛し犧牲獻身的の精神に充滿せよ、明治女學校ハ人世の基礎は道德にありと確信し、亦た人間の義務は他を愛するとにありと確信す、故に善にして身を獻ぐるの一事に至つては、諸子の一人一人、全校中の何人にも强く勸告奬勵し、苟くも之に違背するものあらば決して容赦するとあるまじ。諸子は其の智力才能を自由銘々に發達し玉へ、明治女學校の卒業生には、貴婦人もあり、賤の女もあり、演說者もあり、子もりもあるべし、其地位職業は成るべく相違せよ、然れども此の中心たる精神に至りては一人も相違するとある可らず、皆な善人たれ、純潔なれ、高尙なれ、犧牲獻身者にてあれよ。

今后の希望

扨て現今未だ成し得ざるものもあり、即はち看病婦、女醫、其他の女職工の事の如き、本校素と私立にして資金の足らざるに由り、目下直ちに施行し得ざるの科目少なしとせず、左れど、向來には必らず之を成就するの日あるべし、諸子すでに委員十名を擧げ、且つ年々之を改撰して本校擴張の爲に盡力し吳れらるゝは謝すべきの至りなり、今日迄に至りしも實は諸子が熱心なる補助によること甚はだ多し、願くは今后も益々吾等を助け、本校の希望をして一日も早く成就せしむるやうに盡力あらんとを賴むなり。見よ本校の普請は小さく、且つ粗末にして、新築后尙ほ三年なれども、すでに古くなり壁も落ちかゝり居れり、左れども明治女學校にして若し同志者にあらざる他の補助を請くるときは、其家の立派になり器械の完備すると同時に、最早明治女學校は絕滅するなり、諸子亦た能く之を知らん、願くは其精神に同情を表して器具家屋の不完全なるに容赦せよ。凡そ眞の學校なるものは材木の建築にあらずして無形の教場にあるにあらずや、教師必らずしも教ゆる人にあらず、生徒必らずしも學ぶ人にあらず、諸子と吾等と衷情より深く相愛し、吾等は諸子の爲に全力を盡すを得、諸子は亦た自由に其能力を伸すとを得ば、此の茅屋破壁は王侯の玉樓にも優る心地のせずや、クリストの教場は枕する所もなき迫害の地なり、孔子の教場は陽虎に苦しめられたる陳蔡の間だなり、王陽明の教場は高山大水の邊りなり、プレベルの教場は破れたる小さきカイルハウの小校舍なり、諸子此の破塾を愛せよ。

論説

ゼンチス、ミルラー夫人の改良服

在獨逸　新戸邊（元太田）稻造

我國に於て人民一般に西洋風に狂し歐米の流行に醉ひ戰々競々摸擬を是事とせしは實に三年前の事に御坐候小生は此時風俗の豹變を觀察致し居候得共格別意見も吐露仕らざりし次第に御坐候そは彼豹變が朝に行はれて夕に廢るが如き一時の流行あるか將亦人民の腦底に深く浸染したるものなるかを聢と見止め得ざりしが故にて有之候、

衣裝服飾の流行

は價値なきものにして敢て意とするに足らずと輕視過眼する人も有之候得共其實誠に然らず大に深思熟慮を要するもの有之事と存候是に就ては社會學者も經濟學者も哲學家も等しく注意せざるべからざるもの可有之候衣服と人類との關係は誠に密々にしてカライルが半誠半戲にて彼のサルター、レザルタス中に云ひし「衣服の哲理」よりも一層大切のものと存候夫れ故服裝の流行に付ては充分に注意し其影響の眞價を判知すべき事と存候斯く觀し來れば尙此服裝の事につき陳述致し度候得共是は此に畧して他日の問題と致すべく候偖、

三年前の服裝の流行

に付て今日より回顧すれば一時の流行にして何の益もなきものにて有之候流行熱去り歐風狂醒め只我國に及ぼせし結果は大切の財貨を歐州諸國に流逸せしめたる事に御坐候而て餘す所は如何なる婦人にも今日着用する能はざる物品に御坐候此時に於て（さなきだに我貧弱國より）幾多の貨財を空しく他國に流出せしめたるかを研究するは誠に經濟學者の好問題と存候嘗てゼッファーソンが奢侈虛飾は飢渇よりも費を要すると多しと云ひしは誠に眞理と被存候、

三年前西洋風の流行

せし時小生は米國在學中にて一日「日本に於ける衣服改良」と題する一文をロンドンタイムス新聞にて一讀致し候是に就て直に一篇の答文を草し之をフィラデルフィア、レッヂヤーと申す新聞に投寄致し候之も左に附記し候御一讀被下度候其終末にも申し候如く日本服及び西洋服の欠點と長所を擧げ兩者を混じて其長所のみを取て改良したらんには甚だ都合よき衣服となるべしと述べたる事に御坐候夫れ故に小生は、

ゼンチス、ミルラー夫人の改良服

の事を聞くは實に喜ばしき限りに候フィラデルフィアなるエル

キントン孃右改良服の事を貴君に通報し呉れと申來り候故左にエルキントン孃の書簡を掲載仕る可く候御覽の如く其改良服の下衣は我國の袴に甚だ相似たるものに御坐候故殊に御注意の程希望致し候小生は多言を費さず候故精しき事はエルキントン孃の書簡にて御覽被下度候若我國の服裝殊に女性服裝の改良を企圖し且希望する人々の參考にも相成候らはゞ幸甚に候。

右書簡中にも見えし如く新戸邊氏が嘗て米國の新聞に投ぜし一文あればエルキントン孃の書簡を譯出するに先だちて左に記載せん　譯者誌

日本に於ける服裝の變化

パブリツク、レツヂヤー記者閣下余は閣下がロンドンタイムス新聞より轉載せる我國(日本)女服の變化に關する一文を讀み轉た慨嘆に堪へざるものあるなり余は如何にしても彼議論に左袒する能はず何となれば歐米人は東洋諸國に付て偏頗の見を抱く事甚だ多く今回の一文の如きも亦此内を洩るゝ能はざればなり彼論者曰く我國の氣候は温和にして我祖先が着用せしが如く優美なる服裝を用ひざる可からず云々と余は此點に付ては多言を費さず只彼論者が、日本の地勢を觀察し倚平均華氏寒暖計五十六度以上の國に於ては空氣の流通し易く長袖開襟の服裝を要すと云はゞ願くは日本太古の歷史を繙け、恐くは我國古代の服裝は歐洲古代の燕尾服或はプリンス、アルバートの服と大差なき事を知らん然り今日に於て彼我の衣服に大差を生じたる所以の者は誠に我國古來の制度自由ならざるが爲め服裝迄人躰に適當の發達を爲さゞりしなり一度此壓制々度を脱して人民自由を得るに於ては躰に快く且便利なる服制を用ゆべきは理の睹易きものなり決して論者の所謂「輕薄」なるが爲めに非るなり彼便利の服制を取ると共に種々の惡習弊風をも輸入せし事は余の認むる所なれども其大躰より觀察すれば風俗變化ハ進步せしものと云はざる可からず其他我國人の輕薄浮躁を難ずる諸點に付ては余は敢て云はんと欲す我國今日の如く日進月步の時代に於ては實に止を得ざる弊害なりと彼論者が考ふる如く、

我國風俗の變化

は左程甚しきものに非ず紀元千八百七十七年英國の貴婦人ブラツシー夫人云へる事あり曰く日本の風俗は日々變化しつゝあるを以て三年の後には悉く歐洲風と化し歐米の旅人が觀に

足るものは存せざるに至らん云々と、今日より之を見れば只人智の淺薄にして卓見なき好證を示したるに過ず或點に於ては論者の云ふ所當れり然れど我國の風俗習慣は果して論者の云ふが如く變ずべからざるものか今試に論者に問はん歐洲人は昔し椅子及テーブルを用ひしが爲めに靴を要せしか將亦靴を先に穿ちしが爲めに椅子に倚るの必要起りしか其使用の順序は兎も角も其一を用しが爲他の必要を生ぜし事は明なりとす論者の云ふ如く我邦人は椅子を用ひず床に坐す然れども椅子を用ひざる間は服裝を改革するは非か床に毛織物を布かずんば靴を穿つべからざるか曰く否余は信ず一を採用せば他は之に從て適用せらるゝに至らんと、思ふに我國の服裝は

甚だ緩緩に失してシヤリなし

と云ふ欠點あるが爲めに今日服裝に激變を生じたるものあらん然れど歐米婦人の服は我國に比して不健康なるは疑ふべからざる事實なり此故に米國に於て日本の服裝を用ゆべしと主張する者あるあり又我國に於ては歐米風を輸入せんとす斯く兩者互に他を取らんとするは正に服裝改良の前徵にして大に賀すべき事なり改良に改良を加へて止まずんば遂には最上の服裝を發見するに至るべし米國婦人が用ゆるコルセットの如き不健康なるもの及び奢侈品の如きは一日も速に改良せられん事を希望するものあり要之余は兩者互に其欠點を捨て兩者の長所を取て最上の服裝を作らん事を望で止ざるなり。

千八百八十七年二月八日

ジヨンス、ホプキンス大學　太田稻造

附言「エルキントン」孃の書簡は都合により次號に掲ぐ

女子盍ぞ和歌を學ばざる（其二）

雲峯子

女子の性質既に斯の如し、されど夜光の玉も箱に藏むれば光を放たず燈も是を升の下に置かば四邊暗し女子の感情如何に鋭きも如何に深切なるも之を心中に收めば何の益する所あらん之を發表して「力をも入れずして天地を動かし眼に見えぬ鬼神をも哀はれと思はせ、男女の中をも和らげ猛きものゝふの心をも慰むる」に至つて始めて其功あるものと云ふ可し然れば必らず其感情を發表するものなかる可からず之何に依て發表すべきか英詩か漢詩か將た亦和歌か文明開化の今日女子教育の盛なる當時なれば或は英詩をよくする者もあらん漢詩に巧なる人もあらん然ど今後多數の女子に適し亦作易き者は果して何なる可きか余は其和歌あるを知る見よ中世以來我國に漢學の流行せしより女子と雖も漢學を學し者甚だ少からざ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る可し而して漢學者として若くは詩人として後世に名を傳ふる者果して幾許かある思ふに多少之れあらん余は之を知らざるなり然れど和文學者として歌人として芳名を遺すもの甚た多し紫式部、小式部の内侍、小野小町、阿佛の尼、大貳三位、赤染衛門、伊勢大輔、周防内侍等其の最たるものなり精細に摘擧せば尚此外多かるべし余は過去の實例に徴して後來を判せんと欲す然り過去の實例は先に擧げたるが如し余が女子に和歌の適すると云ふは抑非耶素より時代の如何其天才の如何に多少關係する所あるべしと雖も其性質に適すると否とは明かに判知するを得べし今日の女子たるもの何ぞ和歌を學ぶに躊躇逡巡するや。

女性と和歌　英語にては女子を指てGentler sex. 若くはSofter sex（柔軟性）と云ふ是決して惡しき意味あるに非ず女性の柔順温良天樂に舞ふ天使の如く春風に笑ふ花の如き美質あるを示すの語なり是普通の感情にして何人も之を然らずと云ふものなからん而して和歌は即ち詩よりも軟かなる事是亦普通の感情と云ふ可し余は何故に和歌は軟かにして漢詩は確きか素より論理法に依て之を證する能はず只余が斯く感ずるが故に斯く云ふのみ若人あり之を證明せよと云へば余は知らずと云はんのみ只知る歌は柔軟にして詩は剛壯なり彼は春草緑深き所に滴る朝露の如く是は氷る蘆原にたばしる霰の如し彼は洋々たる大海の如く之は巍々たる泰山に似たり一は花の如く他は實の如し彼若し習々たる春風に比す可くんば之は凛々たる木枯に譬ふ可し一は鬼神を泣かしめ猛夫を和ぐるの力あり他は懦夫を立たしめ鈍き者を勵ますの功ある事を、女子の性質前に云へるが如く和歌の性質亦此に述るが如し女子に和歌を學ぶべしと云ふもの實に此故なり。

和歌の用　和歌の用につき尙一言せざる可からざるものあり曰く文章を作るの助けとなるなり文運盛なるの今日に於ては女子と雖も亦大に文章を書くの必要あり然れども記臆せよ女子の天職は將に是れ、

"Oh, not for wealth, or fame, or power
Hath man's meak angel striven,
But, silent as the growing flower,
To make of earth a heaven;
And in her garden of the sun
Heaven's brightest rose shall bloom";—

なる事を然れば女子の文章亦其天職を全ふするものならざる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

可からす余は古代の和文脉を再興せんと望むものに非ず源氏物語、竹取物語等の如き其文或は巧妙ならんも是を今日に用ゆ可からず只讀て以て今日の文章の助けとなすべしと云ふに過ぎず然れど亦漢文直譯の如き文を作るは亦余の大に嫌忌する所なり此に於て余は云はんとす古來の和歌和文を習熟して之を應用して女性に適するの文章を作られん事を希望するものなり而して和歌を學びて文章を助くる功如何曰く(第一)文法に精密なるに至る(第二)和語を學び得る事なり之文章の二要素にして恰も酸素と窒素とが空氣の必要分子なるが如し之を習得するの方法素より多かる可しと雖も余は和歌と共に學ぶを最も得策なりと思ふ(此事に就ては倘卑見を陳述せんと欲すれども餘白なきを以て此に畧す)數年來女子に和文を學ばしむるに至りしを見ても今後の文章は必らず從來の漢文躰と異るべきを卜知するに足る嘗て之を聞く曰く和文學者必らずしも和歌をよくせず和歌をよくする者必らず和文を作り得べしと今日の女子何ぞ和歌を學ばざる然れど余は女子諸君をして悉く歌人となれと云はず源氏物語の如きものを著はせと注文せず只諸君が天賦の感情を發表し其天職を全ふするに足るものを習得せられん事を希望するものなり天下の萬事萬物には時期あり得るに時あり失ふに時あり期を失せば亦得る事難からん青年女子夫れ心して後日に悔を遺す勿れ。

因に記す余は素より和歌を知るものに非れども女子と和歌との關係につき近頃聊か感ずる所を過日明治女學校に於て演説せり右の一篇は即ち其草稿を少しく改刪せしもの也。

批評

存娼實際論

村山任情居士と云へる人の著あり、六章に分ち八九十頁に於て一種の存娼論を爲す、三段論法により左の斷定を下す、

俗人社會は公娼私通密娼等を廢するとを得ざる者也。
日本社會は俗人なり
故に日本社會は公娼私通密娼等を廢するとを得ざる者也

其論法大率ね右の如し、他の全斑を推知すべき也。

新誌

經濟及統計

昔し伊邪那岐の神の天下を治むるや先づ日の神、月讀の神の兩職を置けり、素佐之男之神の出雲を鎭撫するや亦先づ大名持の職を置けり、蓋し統計算の事の大切なるは古今何の世に於ても然りとす、蕭何は之に着目するを以て第一の功臣た

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り、項羽は之に頓着せざりしを以て遂に敗北するに至りぬ、鑑みずんばある可らず。然るに統計表は之を一覽するとき極めて無味にして尋常士人の眼こには面白味あるとをなし、此を以ての故に人往々之を等閑に附し絕へて其大切なるとを知らざるものあり、歎くべきの至りと云ふべし。然れども統計表に添へて經濟上の解釋を加へ、所云る骨を被ふに更に肥肉を以てするときは、艷然美人に化成して其の裝ほひ能く衆目を引くに足るべし、此の故に經濟と統計とを兼れ說くと極めて賢こきの手段にして而して、之を目的とし之を名とせるの「經濟及統計」ふる雜誌の世に存するは祝すべきとと云ふべし、今ま其第十四號の記事より左の一表を抜製し此雜誌の効力を明かにす。

東京府下貸坐敷、娼妓、娼妓稼金額、及遊客增減表

年度	貸坐敷數（戸）	娼妓人數（人）	娼妓稼金高（圓）	遊客出入（人）
明治十一年	四〇三	二五七七		
明治十二年	四三一	二九四三		
明治十三年	四三〇	二九〇五		
明治十四年	四二六	三〇八〇		
明治十五年	四三六	三一六八		
明治十六年	三八四	三一五六	七二、六八六三、八四五	一三五、四九八四
明治十七年	三七五	三六〇〇	七四、四二七六、五四一	一二四、三三四五
明治十八年	三六九	三九九七	六九、五七八六、三六三	一三九、一二四一
明治十九年	三七七	四一四八	六九、一八三九、五七八	一五一、二八三一
明治二十年	三七九	四三三八	八二、五八一〇、三二〇	一八八、二八八六
明治廿一年	三七八	四七四六	八九、六六〇九、〇〇六	二〇六、五八〇七
平均	四〇〇	三五〇三	七六、三五一四、一〇九	一五七、五〇一六

之に據れば、娼妓の數も、遊客の數も年々に增加する如し、之れ果して進歩なりや。

躰育及び食物改良

國民新聞の紫山涙人嘗て田口卯吉君を訪へり、其談話の筆記載せて當時の同新聞に見えたるが、中に外國人と日本人とを比較痛論するの節に至り、田口君の云く、日本人は其忍耐力に乏しく遠大なる事業を爲すに堪へずして中途に沮喪するもの多し、然し乍ら其耐忍力に乏しき所以の者は要するに其氣力の雄健ならざるに由る、其氣力の雄健ならざる所以のものは食物の何如に由る、苟くも食物の改良を謀り氣力の雄健なるに至れば豈肯て歐洲人に競爭しがたからんや。吾人は當時之を讀み噴飯して笑へり、鼎軒君例の如く唯物論を主張し玉ふかと、扨て其時の談話は之にて畢りしよし、然し若し更に問を發し其食物の改良法は何如せば宜しからんと問へりしならば、氏は必らず左の如く答へしなるべし、即はち食物を改良するには富を進むるにあり、富を進むるには經濟を整理するにあり、故に國の經濟にして整理せば日本人民も西洋人の如くに雄健となるべし。

田口君此頃ろ亦た經濟雜誌上に躰育論一篇を掲げ、

余輩の尙ほ書生の境涯に流浪するや全く讀書主義にして一切の武藝を廢棄したり時に友人中擊劔を主張するものあるに會せば即ち之を排斥して曰く宮本無三四はニウトンたるを得ずニウトンは宮本無三四たるを得す彼心志を武道に注ぐ者焉んぞ智力を發達するを得んや余はニウトンたるこさを期せむのみと今や此書生は終にニウトンたるを得ずして餓飢道より來たる幽靈の一となれり世間此類の失策を試みしもの蓋し少々ならざる可きなり。

と云へり、前后相對して一種の味ありと云ふべし、夫れ食物改良の事及び躰育の事の如きは衛生家は每日の樣に說法し、若し食物改まり躰育進めば日本は直ちに天國の如くになると論ずるなり、其論の過望なると固より前段鼎軒君の所說にだも超ゆると百等なりと云へども、抑も衛生家の口より如此き說を聞くときは別段珍らしとも思はず、但だ歷史家たり經濟家なるものゝ口より之を聞くときは甚はだ面白く感ぜらるゝ也。元來吾人は鼎軒君ほどに此種の事に望を置かぬものなれども、其事の目下に大切なる所以に至りては年來あまたゝび主張し、日夜其改良を希ひて止まざる所ろ也、故に斯る說を見る每に欣喜に堪ゆるとなし。今や政治論の外に大事件なしと思ふものゝ多き時節に際し、如此き談話論說を見るは、厭倦せる頭腦そゞろに春風を呼吸し、實に一陽來復したる心地するとも也。

善にも弱く惡にも弱し

日本の國粹は何んぞ、秀麗なる富士の山なり、淡艷なる櫻の花なり、すらくとしたる和歌なり、油氣なき料理なり、其氣候は四時温和にして熱帶の如くに熱くもなく亦た寒帶の如く寒くもなし、其四面は高砂の波靜かにして怒濤暴風少なし、狐至る所ろに充滿すれども一つの獅子もなく、たまく之あるは瘠せたる狼にして虎の如きは玆に生存せず、嗚呼日本の山川風土衣食禽獸は悉とく淡泊にあらずや、其人民も亦安くんぞ然らざるを得ん、國民新聞は云く、彼等は善にも弱く惡にも弱わしと、眞に然り吾人亦た久しく之を歎ず、若夫れ之を改良するの策何如んと問ふものあれば、吾も人も共に甚はだ困却せざるを得ず。

蓋し風土山川にして若し人の心を移すとせば、此の山川風土を變化せざる以上は亦た人心の氣質を改むるを能わじ、之れ至つて六かしきとなりと云へども、彼の唐の詩人の詠せしが如く竄珠產無種、彩雲出無根、亦如彼妹子、生此遐陋村、とせば美人王昭召も僻村に生るるとあり、クリストも亦たナザレ村より出るとあるべし、此山川風土何んぞ必らずしも偉人を生ぜざるとあらん。嗚呼國風改革の基礎はホームを整ふるにあり、賢夫人良細君を出すにあり、道德高潔の思想を健全にするにあり、之を一言すれば女子をして其の當に進むべく當に在るべきの地位に達らしむるにある也、之を改革法中の最も有力なるものとす。

農哲林遠里氏

と題する一篇國民新聞に見ゆ、筆者喟然として歎息して曰く、世に賣文者多くして天下の爲に一片のパンを增さずと、實に然り、遠里氏の農法は稻草の天性に從ふにありと、曰く

農理は主として禾穀の性に從ふのみ天地を師とするのみ生物生育の理を遵奉して唯痒きに手の屆がざる處ろを人力を以て助長するに過ぎず

而して氏は開拓、肥料、大農などの議論を無益とし、たゞ收獲高を增すとを專一とす、氏が發明法に由れば一反步の取實殆んど二倍すと云へり、思ふに方今農具の精ならざるを歎ずるよりも寧ろ小作法の整わざるを歎ずべし、肥料の化學的ならざるを惜しむよりも更に地主の無頓着なるとを惜しむべし、昔はアリストートル曰く、田圃最良の肥料は持主の足鞋なりと、吾人は器械を適用し肥料を改良するに先だち先づ作り主が更に十分に其力を盡すを得なんとを希望す。

雜録

閨秀小説家答

第三　若松しづ子

女史は本誌に「お向ふの離れ」「忘れ形見」すみれ「イナックアーデン物語」等を寄せられたる方なり。

近頃記者足下には深切な覺召があつて女流小説家諸姉に向け、數箇條の質問を寄られたそうで、小妹までも態々御恵送を戴き升た是は多分先達手慣しに一二度試みた反譯などを雜誌へ載せて頂だいした因緣より、小妹も恐多くも女流小説家の一人とお見做しになつた事と存じ升が、是には多少恥しく又聊か不滿に感じた處も有升たから、其まゝ打捨て置ました處が此度また兎も角答文を送る樣にと懇ろなお勸を得まして、少々思直したふしも御座い升から漸く心を勵まして覺束なくも平常信じて居る處を極とり摘んで書付けて見ました、お取捨は一々記者に任せ升。

第一　余の小説を著はす由緣及經驗云々

著作した小説と申ものまだ一ッもなくたゞ一ッ二ッ試みた小説はノヴエルといふ程のもので御座いませんから此お質問にお答へ

は出來ぬ筈で御座りますが、もし小話を試みる丈にもあつたのはどふいふ志ざしだと仰われば、小說に付ては平常第二の問の下に掲ぐる考へですから、女流にして苟も文學の嗜好と心得あらんものは、小說文學に從事して苦からぬ事と思ふ已ならず、凡そ婦人たるものに敎育、矯風の事業の責任ありとせば、一般小說文學の嗜好に投じて正義、高潔などの世に勝利を得る補助を爲すとは、婦人等の多少爲し得る處と確信して居り升、それ故聊か敎育の事に志ある自身も多少己の學び得たる處と悟り得たる處を理想的に小說に編んで妹とも見る若手の女子たちに幾分の利益を與へ、社會の空氣の掃除に聊さかの手傳が出來れば何よりの幸福と考へて居り升た、併し萬ず未熟の身にとつては、心の中さへを、文に綴る事が容易く御座いませんので、讀者の御不滿は自身の不滿に較べる事も出來ぬ程あらんと、始終思ふて居り升、いつそそれ故人の著作したものゝ中、手頃のを撰んで譯したほうが、はるかに心易い樣にも考へて居升。

第二　小說に關する理想、希望、持論云々

小說文學に付ては先生方の御議論がさまざま有樣で、自身は固より確乎とした分別は覺束ない事ですが、併し小說を一ツのミーンスとしての價値は、先手近な例をとれば、子供の弄ぶおもちやに似て居ると思升、若しおもちや屋の代物に一切價値がないと致さば、世に有ふれた數々の小說本も誠に何の功能も御座り升まい、併しそうでない、おもちやは子供の發育に大した關係のあるもの、作り樣、用ゐ樣によつては、書物や敎師の及ない効用をすると仰やれば、小說も矢張り矯風上、敎育上に同樣の關係を有つて居つて、間接には學校や論說や說敎などのとゞかぬ處に其感化力が預つて力が有ると思ひ升。そうして二ツとも其需要のある間は、其物自身に價直のあるないに係わらず、是に應じながらある丈これを利用して、社會の進步を補助せねばありません、然らば近いたとへに彼の繪草紙屋に近頃風俗を亂す物ありとて警視廳より禁止された樣なものが、亦小說の中にあつてはなり升まい、よしまた見憎いものを繪に書く必要の有つた時は、ある可く是を憎み嫌わざる樣に書ねばならぬ通り、普ねく人事を寫し出す社會の繪又寫眞の如き小說に、惡人惡行を描き出す時分には、これを善人善行に對して其性質品位を判別し得る已あらず、一方を敬慕すると共に又一方を嫌惡させる樣に注意して書事は、小說家の本分と存じます。苟も小說家にして、少く

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

とも此心得がない時は、實に徒らに文學を弄ぶのであつて、道に志す人の共に語るに足らぬ族と存升、若し又小説文學が徒らに人情を描き出すに止る者ならば、私共は自ら許して斯くの如きことに練熟を得ることを一ッの目的として、追求むる事を屑とせぬはづで御座り升、併し今の世には人の命を奪ふ利器が人の命を救ふ器とに一成て居る通に、少壯の志を養ひ、社會の空氣を清める小説よりは、寧ろ少壯の操を破り社會の空氣を毒し、其元氣を吸とるもの丶方が、遙か多いのは、如何にも歎く可きことと存じて居り升。

第三　余の平素愛讀する小説云々

小説と申ものを讀始めましたは、小妹が十五六才の頃で、英書の獨り讀がカスヾヽ出來て來た時分、The wide wide worcd, 類の小説ものを始めとして、

Dichens,
E. P. Roe,
Allcott,
Lytton,
Scott,
George Eliot,
Mrs. Stowe,
Hawthonue,
Miss Mulock,
Victor Hugo,
Charlot Bronte.

其外名の多く知られぬ人の作をとりまぜて、近頃までに讀升たのが八九十種は有つかと思升が、其中格別目的があつて讀んだものは至つて尠なく、慰みの爲に讀んだのが余ほど多いので御座り升、是等は何れも大家と知られた著者でせうがさて其著作中で一度目を通したのを再讀して玩味しようと思ひ升たのは、餘り多くはなく、中で多く讀だDickens, Lytonなどの作の中でも再讀致升したのはDickensの"The Old Curiosity "Shop"と"David Copperfield"又Lyton の "Zanoni"と丈でした多くは一讀する折はたとへば食事の時間を忘る位に讀ほれたものでも、程經た後は殆ど顧るも厭は敷なり、若年の婦人などには一切勸めないのが多く御座り升た、併し讀んで一切差支ないと申て女生徒などにも勸めるのは茲に掲た中で、先づ Scott ,Mulock, Stowe などの作で、其外の大家の作も中には好ものもま丶有升が、年若のお方などには有害無効のものが多いと存じて居り升。blank verse に書た小話の中で、再三讀んだのが數種御座り升が、是は重に文章に趣味のある爲です。其中に Mrs. Browingの"Aurola Leigh"と"Owen Merideth の"Lucile"と有升、日本文の小説類は僅かに馬琴の作三ッ四ッ、物がたり類數種、其外新著百種の類の外、多くは讀みません、中には愛讀した(初戀細君、風流佛)など云者も有升が、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

尙ほ立派なものがこれより多く世に出ることと存じて樂んで居り升。

第四　近時の小說文學云々

此お答はモット考がまとまつて、充分にお答の出來るまでは、中々わたくしどもの及ばぬことゝ存じます。

次には佐々木竹柏園女史のお答を載ます

モロカイ島の新ダミエン

一少孃、癩病島に入らんとす。

碓氷山人

全島內に癩病充滿し、山川草木も尙ほ悉とく臭氣紛々たるの魔島あり、之をモロカイと云ふ、一と度び此に入るものは亦た出ることを許されず、万邦悉とく交際を謝絕して只だ其島民の滅絕するを待つの日に當り、若年有爲の僧ファーザー、ダミエン奮つて其島に渡り、溝渠を穿ち、汚穢を淸め、學校を開き、教誨を催ふし、彼の天刑の重病をも人の仁志によりて愈さんとし且つ其の續々として死するもの丶爲に末期の靈魂を慰さめ、肉によりて眠るものを靈によりて生かし、滿島の惡疾を漸次に治療しつゝ功殆んど成らんとするのとき、身亦た不治の病に罹りて毛漸やく脫し皮漸やくたゞれ、全骨うづきて遂に死せり、之れ數ケ月前の事にてある也。爾來其美談を語り傳へて躍立するもの多し然れども未だ一人も眞に起ちてダミエンに代らんとするものあらざりしに、今や英國片村の一少孃は斷然意を決して近日此島に渡らんとするなり、其愛限りなく其勇極まりなしと云ふべき哉、パルマルブゼットの記者孃を訪へるの談話筆記に云く、

パスを去る事數英里にカムダウンてう一小村あり此處に賤しからぬ活計をなして閭里に名を知られたるファウラー某あり此人一少女あり名をファウラー孃と云ふ過る金曜日リバープールを解纜せしポスニア號に搭して南洋に渡り嘗てファーザー、ダミエンが身命を犧牲として看病せし南洋島の癩病患者の傍に至りダミエンに亞て力を盡さんとて行ぬ南洋の島に着せば名を改めてロース、ゲルトゥルードと云はん彼女が出立するに先立つ數日余(パルマルブッチェット記者)彼女を訪ぬ余は彼女の家に至りて應接室に待つ事數刻彼女は蓮步を移して徐々余に對して安樂椅子に倚り白妙のかひなをもて其頬を支へぬ其眼は玉の如く其顏は花の如く其聲は天樂の如くなりき夫れより彼女は暫時其履歷を述べ將來の企圖を簡單に話しぬ彼

女は具に是「人の爲に勞苦するは我等の天職なり兄弟の爲に勞苦を忍ぶ能はざる愛は眞誠の愛に非ず」と云ふ敎を信ずるものなり思ひ見る青春妙齡の美少女が南洋の熱天湯地に着するの時床上に苦吟痛呻しつゝある幾多の不幸者新に看護者を得て隨喜感泣する事を余はやがて問を發してファウラー孃よ

御身は何故に殊更好んで斯る病者を看護せんとはし給ふぞや

と云ひぬ彼女は暫し默してありしが間もなく花唇を開きて答へぬ妾は此事に疾より心をつけたりきさればダミエンが病に罹り次ではかなくなりしより殊に此事を思ふ切なりき妾は今より七年前ローマンキャソリック敎を奉じ其時直にモロッカイ島に渡らばやと思ひけるが年若かゝりしを以て暫く見合はせぬ爾來聊か經驗を積み今は漸く我身の方向を定むべき時とはなりぬ人若き時は自からを知らず故に妾の友人は勸め呉れぬ「後悔先にたゝず他日悲む事もありては妾の爲めにならねば尙生長するを待て深く考ふべし云々」と

彼女は年まだ若くして嬋妍たる處女の風采よく其貌にあらはれぬされど暫く談話せし後彼女は深く自らを知る事見えて今企圖せし貴重の働きに身を抛つの止むべからざるを悟りし事明白にあらはれて賴母しかりき彼女は語を亞で云ひけるは

此世に在て上帝の働を爲すは妾の夙に望む所なりき斯る働きに一身を供するは妾の願ふ所なりき上帝は我等に告げて「其友の爲めに生命を犧牲となさぬ者を上帝は愛し玉はず」と云ひぬ以謂らく妾の友人より外に妾の事を喜びて聞くものはあるまじ數ならぬ妾の事を新聞に載せ玉ひで若世に公に告けばパリサイ人の十字街頭に立て大言せしと撰ばんや是れ偏に妾の望まぬ所なり妾は只數年來の宿志を遂んとするに過ぎず若貴下の云はるゝ如く幾多慈心の人をして憐むべき癩病者に同情の念を起さしむる爲めならば公にするも異存なし然し願くは妾の出帆後に公になし給へ來る金曜日に發せん。

御身は其働をなさん爲め特に敎育を受けしや

然り數年の間用意を爲しぬ妾は巴里にて醫學を修めぬ是決して學位を貪りしに非ず只彼患者を療せん爲めなり其他パスチウア學校にて妾が望を達するの助となるべき事を學びぬ例へばパスチウア氏の學理に依れば癩病と或肺疾は時として同種類の病蟲居る事あり斯る時には兩ッの病に同じ藥を用ゆべし

と云ふが如き類なり云々余は更に問へり

御身に病の傳染せぬ爲めに藥を用意し給ふや

否とよ平常注意して養生するより外に格別藥も持たず然し妾が今回天涯萬里の孤客たらんと欲するは誠に癩病者を看護せんと思ふ故にて我身の爲めに謀るに非ず若癩病傳染せば妾は一死あるのみ是妾の義務盡るの日なり亦何をか恨まんやされど妾には傳染せざる可しと信ずる所なきにしも非ず妾が癩病院に至らば凡ての事一手に引受けて爲さんと欲するあり若病院に於て不都合なる所あらば改革し汚穢なれば清潔になさんと欲するあり妾が佛國に在るの日友人より種々の裝飾品を贈られたれば妾は是を以て病院を飾らんとす而して常に讃美歌を歌ふて患者を慰めん妾の俸給を貯へてピアノ若くは他の樂器を購はん云々キヤソリック敎の優々たる女服を着けし紅顔の美少女が熖熱湧くが如きハワイ島に航し半野半開の國土に蹈み入り苦煩を厭はず瀏亮の音を以て癩病患者の爲めに美曲を奏するとは誠に古今の一大美觀と云ふべし。（未完）

政治家は君子ならざる可らず

上に在りて政事を執るものは、たとへば番頭の如く、委員の如く、父母の如く、亦た敎師の如し、深く其身を愼しみて切に其の大任に當るべき筈なり、苟くも然らず其志誠實を欠き只管らに己れが益を計り、逸居美食して民の膏血を吸わんものは、朝たに千令を發布するも夕べに反くもの雲の如く多からん、絶へて其効ある可きにあらず、われ今日の政事家を見れ共未だ定かに其善惡を知らず、左れど近世の我國政事家に於ては、特に西郷隆盛、大久保利通の二先生に服するなり、先生等敢て利巧あるにあらず、亦左したる學問創見のあるにもあらず、只だ一意國民を愛し、万事を悉とく誠實より發するによりて即はち万人に卓越するの大器量となり、以つて能く人をも服し世をも治めたるとあり、

大久保利通翁の詩に

迂生未有尺寸功。漫辱朝恩禁闕中。早晩求賢成夙志。深山何處訪英雄。

又た　西郷先生の遺文に、

廟堂に立ちて大政を爲すは天道を行ふものあれば些とも私を挾みては濟まぬもの也、いかにも心を公平に操り、正道を踏み廣く賢人を撰擧すべし……然るに家屋を飾り、衣服を文どり、美妾を抱へ、畜財を謀りなば、維新の功業を遂

げられ間敷なり、今と成りては戊辰の美戰も偏へに私を營みたる姿に成行き、天下に對し戰死者に對して面目なきとなり。

昔は　德川家康亦云へらく

古より代官と德利の首には繩の付者也と云事有代官役する者ハ大名狂言の役者の樣なる者也烏帽子直衣着て太郎冠者次郎冠者召連出たる實に大名の樣に見ゆれど其狂言終れば舊の何右衛門何兵衛になる代官又如左預り所は己が知行の樣に思ひて支配する故に百姓共は殿樣と云女房を奥樣御前樣など丶尊敬する故に自然と奢出家內萬事大名風にて預り物の年貢金等遣ひ散し三年めの勘定には四年めを取越先繰に間を合せ候故早速にハ引負ハ不知物故に油斷して代官上げ物勘定の刻大分の引込俄に驚き親類緣者の助力を賴み手前財寶を賣しろなしても間に合ざる時首に繩付者也。

貪慾にして厭くとなきの臣は末路常に斯の如し。

獨身者の弊

みれ子

獨身の生涯を送るもの今日の社會に多かり其故を問へば或は經濟上より結婚せぬと云ひ或は好き配遇を得ぬ為め獨り暮すと云ひ亦或は宗敎上の思想より獨身に世を渡るを以て上帝に忠義なるものと答ふされど是等は皆誤れるものと云はまくのみ殊に宗敎を奉ずる為めに獨り居るは大なる誤りにて古來眞に上帝の忠僕たりし人多くは嫁ぎしものにてありき女子にして結婚せぬものは云ふ嫁すれば兒女を育つべき責任あり是寧ろ女子を苦しむる桎梏なり如かず之を避けんため獨り暮らすにはと、さりながら統計表を見るに二十歳と四十五歳の間にて死する女子は獨身にて暮らすもの多し有名なる醫師ユーフランド氏は甞て「長生術」と題する一書を著はして結婚は長生術の一なりと云ひにき兒共を育つる厄介を逃れて樂しく送らんと思ふ人多くは其望の外づる事を嘆す眞誠の幸福と快樂は斯る利己的の生活にて得べきものにあらず然れば昔より獨り世を渡る人は或は賭博をなし或は酒を嗜み亦は鴉片を呑み其他種々の藥抔用ひ其徒然を慰めんと欲すれども未だ眞誠の滿足を得しものあらず殊に女子は其取る所の事業の如何によらず其働く所の社會の如何を問はず實に慘憺たる結果を來すもの比々皆然り彼等は樂しく見ゆるも幸に見ゆるも其心中は悲慘の情に滿つ若世に不幸なる者あらば彼等は即ち其最なるものなり年々自殺者の統計を見るに其の三分の二は獨身者なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其他癲狂院に幽せらるゝもの〻過半も獨身者なり佛、普、パ、リヤ、ハノーバー諸國に於て狂氣するもの〻五分の四は此獨身者ありといふ獨身生涯の弊此に至つて極ると云ふべし。

きよめぬ庭

洒落齋主人

其七

花ふゞき

なまなかに、きよめぬ庭はちりもなき、山の下庵の邊り、此頃は花の盛とありければ、常にはいと足遠き人など、花に誘はれて、訪ね來る者も多く、主人もいとうれしきことに思ひ居たるに「月に村雲、花に風、雲と風とがないならば、なんぞ惜まん月と花」とはなるやんごとなき、主人の友の、口づさみたる小歌の如く、一夜嵐のしきりに吹けるまゝ、よくは目ざむるまで、花の爲心を痛めしに、奈滿與美の甲斐なくも、明る旦よなつて見れば、多くの花どもは、吹き散らされ、昨日迄も、夕までも、世界の美しと云へることを、代表したる櫻も、今日となりては花片忽ち散つて、萬朶空しき情態、實にはかなきは色香ある可し、古き小歌にも

春の夕の手枕に、夢おどろかす軒の雨、ぬれて又散る山櫻、
花ほどもろきものはなし

となん云へり。されば此の散りしける花片を、むげにすてんもいと惜しく、つぎにかきつらねたり

一片　鄭寧に過たる答

兩人の小女ありて、一人の男にむかひ、兩人のうちいづれぞ若く見ゆると問ひけるに、男答へて、此方を見れば此方ぞ若く、彼方を見れば彼方ぞ若くなん見ゆると云ひしとぞ。

二片　若き醫學士と老たる醫學士

若き醫學士と、老たる醫學士とは、いかにして判つ可きものにやと問ひたる人あり、或人答へて、若き醫學士は、此方より診察料出しやれば、面に時ならぬ紅葉散す可し。されど老たる醫學士は、診察料出しやらぬときは、面を赤むるにて知る可しとなん云ひける。

三片　祈禱の書物

一人の貴き少女、聖書ども商ふ店に入來りければ、店の者走り出でゝ、なにの御用にやと云ふ、「少女」祈禱の書物一つほしと云ふ。「店の者」さればなりカドリックのにや、プロテスタントのにや、又はグリーキのにや。「少女」何れのにてもよし妾はたゞすぐれて美しく綴たるをもとめたしとぞ云ける。

四片　をさな心

小兒　アノ伯母さまよ、家の伯父さまは何をなさるゝ御人。伯母　坊や伯父さまは御役人サ。小兒　さればあなたは。伯母　わなみは御伯父さまの家婦サ。小兒　タッタ家婦ぎり。伯母　アゝ家婦ぎりサ。小兒　それでは伯母さまは餘り御暇すぎて無御困りでしやうヨ。

五片　活潑なる學生

ナゼ君はそんなに閉いで居のだ、どこぞ悪いのカ。—ソウゥどうも氣に喰はぬ事があるのヨ。君、僕は今何でも遣るぜ、而一躰僕は人間と云ふ奴が癪に障つてならぬ、それだから此奴等を片端から殺し盡ふと思つて、以來醫學を研究する積ダ。

六片　當世の批評家

烏酒舍の大人、近き頃世にもて囃るゝ、怒喜餓鬼の翁がものしたる、新作の淨瑠理は、はや見そなはし給ひたるや、とのたづねをうけて。烏酒舍の主人」さればなり、一日二日さきより、そが批評にとりかゝりていと時間なきまゝ、未だ能くは見も侍らずとあん答へし。

七片　急ぎもて參れ

ステーションの側ある、西洋料理と云る招牌掲たる店へ、今しも急ぎ足にて、入來たる若き紳士、其所の給仕に對て、「今發車可き滊車に乘者なるが、急ビフテーキ一皿もて參れと、云ひ付れば、給仕わのビフテーキ燒んには、時廿分はかゝる可きに滊車はいま十分にて發車す可し、そはいかになし給ふと云に。紳士　さらば、急てそが半分をもて參れと云しとぞ。

なほ餘れる花片どもはまたの日の樂に殘しおけり。

小說

ゆかり事止みがたき不幸ありて此一回は小說を休み候

懸賞題

女學生出校して后ち學びたりし學科の何れが尤も實効を奏せしや、附たり出世后學窓を顧みて教科上に於ける感覺何如ん、

右今日にて答文寄送を〆切り次號に受賞者の名を掲げ第百九號より答文相掲ぐべき也。

通信問答

○通信女學第三卷より日本育兒法改良の率先者たらんとする大學院學生醫學士三島通良氏が得意の育兒法を講義せらる可き旨廣告致しおきたるに同氏の時病に犯されし爲之を講述せられざりしが本月十日に出版す可き第四卷よりは必ず講述せらる可し。

寄書

五長

叢菊野史

古人才學識と言ひ知仁勇と云ひ西人智情意の三を稱す今余は德識學才藝の五長に分たんとす

德とは道德にして至誠人を動すに足る者の謂なり苟も德なき時は他長ありと雖自他を益することなく終には不幸に沈み自滅すべし老吾曾の如き殷鑑遠からず若し德あれば他長なきも亦以て一世の望を繫ぎ天下の人を服するに足るべし故新島氏は大學者にも非ず雄辨家にも非ずと聞きしが普く世人の推重する所となり万人を感化し以て偉業の基を爲せり況や德に兼れて他長ある者に於てをや中村敬宇氏が一代の泰斗と仰がるゝが如きは固より當然とす

識とは見識の謂なり則ち機を未形に察し隱微を識り幽邃を曉り眞僞正邪を辨ずるなり識なき時は縱ひ万卷の書を讀むも唯だ之を記するに止まり其の深理を繹ぬることを能はず識あれば一册の書を讀みしのみにても其の議論を概括して貫通する所あるべし是れ智力（インテルレクト）の中に屬し推理力（ロジカルパワー）、悟性（アンダースタンヂング）、鑑識（デセレンメント）等を包含する者にして智識に活力を與ふ之なき時は智識は記臆中に蓄積するのみにして生氣なく殆ど一塊死物の如くならん福澤諭吉氏矢野文雄の如きは則ち識ありと謂ふべし加藤弘之氏の如きは其の說の獨斷なる所は寧ろ識斷ありとす。

學とは學で而して知れる者なり是れ智識の蓄積なる者より他ならず之を得るには最も勉強して記臆せざるべからず若は万卷を讀み且つ見聞を博くし普く觀察せば庶幾からん抑も智識は推理及決斷を爲すの材料と基礎となれば之なき時は德を脩めんとするも其の方向を誤ることあり識を用いんとするも其の據る所なくして空中城を畫くと等しからん故に智識なかるべからざるなり而して之を得るには最も記臆を要す所謂把住力（レテンチーブホールス）、與形力（プラスチツク、ホールス）の如きは之を得るの利器なりカントは識過ぎて學不及ヘンボルトは智識餘ありて見識不足と云ふ學とへあれば縱ひ識なきも世に事實を傳ふるに足らん唯だ之を取捨することを能はざるのみ西周、井上哲次郎、有賀長雄諸氏の如きは見識に於ても乏しからざれど智識該博にして最も以て著る」

才とは實用に適し機に臨み變に應ずるの力にして猶働くの力と言ふが如し之を用ゆるには精神活潑にして氣色爽快ならざるべからず是れ重もに活動的の者なれば進取に易く保守に難し才幹（ターレント）、力量（アビリチー）の如きは之に屬する者なり之を用ゆるは決斷なかるべからず決斷なければ因循して働かざるなり故に感情頴敏に觀察聰明に決斷迅速に擧動活潑なる者は此に才子たらん角田新平、高梨哲四郎諸氏の如きは此流の人ならん歟

藝とは一科專門の技術に達するの謂にして藝人は一の器なり畫家、畫工は勿論、建築者、採鑛者、製藥者等皆此類に入らん醫者の如きは術のみを行はば藝人なれども學理を窮めんとすれば學者なり藝と學とは關係して相離れざれど一科專門の實用を爲す者は藝にして博く原理に涉る者は學なりされど藝人は大抵亦た多少學にも涉ることを知るべし碁將棋の如きは純粹の藝なり著作家の如きも唯だ彫琢の支技のみを勉むれば藝人にして器なり讀書の取次する教員、長官の命を墨守する事務官等皆然り北邨散史の如き理想小說家は德識多に居らん春の屋の如き新體作者は才學共に秀でん人偏に藝と謂ふべからず畫工の如きも德、識なくば一機軸を出すを能はざるなり

右は敢て推理に因て分類せしに非ず只だ余が實驗と觀察に因て立案せるのみ幸に愚妄を恕せられよ

●河野梓子傳

天民生

友人林某一幅の肖像を携來り余に示す余開きて之れを視る妙齡の一女子なり眉目秀麗毛髮毿々謂然將に語らんとするが如し余曰く神采閑雅風韻高尙天下また如此きの女子あらんや某慨然として曰く是れ河野梓子なり子豫州松山に生る資性剛毅幼より讀書を好み歲十有三にして既に經史を解し日夜黽勉手に卷を釋てず終宵燈下に矻坐し經史を繙き朗々誦讀其深奧を嘗む一夕明窓孤燈の下に端坐し慨然大息して曰く嗚呼何ぞ吾人人類精神の弱なるや或は衣食の爲めに紊亂し或は淫慾の爲めに還搖し確然として動かざるもの少なし是乃ち主義の內に立たざるが爲めなり苟も主義內に立たば何ぞ衣食淫慾の爲めに動かんや夫れ人の主義あるは猶車の輪輻あるが如し車にして輪輻なければ行かず人にして主義なければ立たず然るに最爾たる物慾の爲めに其聰明を掩はれて其主義を貫徹する能はず悲哉梓子一日其父と供に某山に登り水の浴々海の茫々山の峨々日月星辰の光輝燦爛たるを仰ぎ乃はち曰はく美なるかな斯の山斯の水誰れか之れを造る必らず造物の主ありて而して之れを造るや必せり梓子既に造物主のあるを信じ既に其の主義を立つ此の故に其の學ぶ所ろ諄々定理あり常に本邦女權の萎靡振はざるを嘆し慨然として曰はく彼の造物主は吾儕女子をして男子と同一の權利を賦せざるか將た賦せられて之れを伸張する能はざるか抑そも習慣風俗の爲めに掩壓せられて卑下するか何んぞ其れ如此く甚だしきや今にして之れを伸張する能はざれば何れの日か之れを爲さん淡談時の移るをしらず土俗梓子を目して狂と云ふ梓子之れを聞きて笑ふて曰く世俗何か知らん議論固より棺を掩ふて然かる後に定まる今の狂視せらるゝ所ろは他日の賢視せらるゝ所なり今より遠遊に志し磨勵功磋斯の道を伸張せんとす齡漸二

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

十一朝父母に請て曰く兒齡二十餘年積年撫育今日に至る宜しく膝下にありて以て慰安するは是天理の常なりと雖も兒固より深く信ずるところあり今より廣く宇内に遊行し以て天地造物主を本となし一身を犠牲に供し斯道を伸張し普く天下万民に諭さんとす是れ兒が熱中して止まざる所なり言終りて溺泣然たり其情恰も怨むるが如く慕ふが如し父其の切なるを哀み其主義の奪ふべからざるを察し遂に其請を聞けり梓子既に父の許を得るや近郷を遊説す其言明晰確實なる人をして大に感動せしむ然るに僧侶大に之れを疾み屢々梓子に抗す梓子少しも屈せず益々其説を伸張す一夜門外騒然として音あり人あり之れを梓子に告く梓子自若たり忽ち侶蜑數十名干戈を携へ漸く門内に侵入し漫罵叱咤梓子に迫る梓子泰然として侶蜑を顧み曰く諸君何をか爲す余は大義の爲めに一身を委するものなり諸君亦た然らん請供に死なん侶蜑戰栗亦加ふる能はず遂鼠竄す梓子大に爲すあらんとするに及んで適病に罹りて臥す病益々篤し親戚故舊相會して其言はんと欲するところを問ふ梓子曰く余幼より精苦今日に至る一の得るあるなし唯た外地造物主のあるを信ず是を以て廣く世人に諭すところあらんとするも今此の病に罹り復た起つ能はず噫余死氣息奄々遂に冥す時に歲二十有一實に安政二年六月なり林某言終りて轉惨然たり天民子曰く偉なるかな梓子一女を以て一つの教法を創め以て斯民を救はんとす其の見の卓ふる猶蘇教の救主と異ることなし豈に偉ならずや而して其主義目的を貫徹せるに及んでは千辛万苦も避けず經に曰く三軍の師奪ふべし匹夫惑しを奪ふべからず梓子の謂なり然るに天之れに歲を借さず主義未た貫徹せずして死す噫天は是耶非耶。

漫言一則

漁山人

一小説家或る夕、突如として來如し、山人に告げて曰ふには、世の中にては、足下は梁山泊にて——文庫派の異名——其比をされば、黒旋風李逵ならんとの評判何如、山人曰ふ、山人の如き温厚の君子も李逵に比するとは、あゝ然ればとて、世評は那ともしがた、いで此上は彼の二の斧を取つて、文壇に横行し、あるとあらゆる僞せ文壇者を誅殺し吳れん、先づ隗たる足下より手始とせんか、そのとき仇名の適當なるや、否やを試みたまへと、目眦裂け、髮楯を衝きたり、小說家呆れ復物いはずして歸へりたり、山人從容として歌ふ其歌に曰ふ

梁山泊裡富英雄。 膽勇誰如黑旋風。 一筆如揮二斧。 直書誅戮彼詳蒙。

開書

東の都淺草はしのほとりに
住ませ玉ふ章子の君に

四の都 郁の山人

まだおめもじも得ぬ御許に言葉まいらせ候はいとおこのさたには侍れどもあまり御言の葉の美しくも妙なるまゝにかつておのが心にひたと〳〵とあたるふしさへ少かられは同感同情はものいふの習ひときくからに己もそが仲間に入らましとかくは申上まいらせ候無禮のふしは只管ゆるし玉ひてよとて此世は光をかげとの世の中にて候もし一目見てものいよしあし分りぬれば眞の玉を抱きて三たびまで刑せらるゝこともあるまじくせちに君をおもふ眞心もて澤畔に行吟ふ人もなかるあり、あふうまよひの世や花もさかなんとして風にあひ月もすまなんとして雲にかくろ、アー、今の世とても美しきもの强ち少きにあられども之をわきまふものゝ少なきはいと嘆くへきの至りにあらずや

思ふに人の心は恰も水に似たるが或る時は谷川の如く或時は淵の如く或は河の如く或は海の如し時に應しものにふれて感想もしは〳〵にふるものにこそ又時としては落花の渦の中にまはり〳〵て何時いつへくともなく一つの思ひに沈むことあり、たとへば雨空には傘をもて天の大さとなし部屋にこもりては外に宇宙なしと思ひて、一度眦を轉すれば六合茫々四海杳渺鳥謡ひ花咲く船走り魚躍るの好天地あるを忘るゝものなり夫れ今の世は來んとするものゝかたなり、されは、樣々のひがごとあるも理なり、されど隱れて現はれさるものなく畝みて知ざるものなしとかや、義の審判は雙手をひろげて、われらを待つらめ、されば何事か嘆つべきやは、光はかけの暗きによりて猶は明かなるべく、惡しきによりて正しきはますくあらはなるべし

照る月のいつはあれども村時雨
はれし後こそさやかなりけれ

まづは思ひ浮びしまゝをかき列れ申候可祝

諸孃の履歷を問はん

角白生

淸和天皇九代の後胤近江源氏の嫡流佐々木の四郎高綱宇治川先陣なりと呼はりしは己が手柄によりて先祖の名を耀かす積りか先祖の貴き血統を借りて己が手柄に光を添ゆる心得か戰國の史を讀めば往々かゝる風俗の見ゆるなり

ダーヴインはいざ知らず己が父祖の美を顯し度思ふは子として孫としての常情なるべし如何に女學記者足下廣く

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

父祖の履歷談

な世に塞り雜誌に揭げて子たり孫たる者の微衷を慰むる慈悲心は無きや序に尙も物申さん凡そ世にある人男も女も若も老も皆夫々の履歷ありて潮干に見へぬ沖の石の人こそ知られ自らは覺へ居る事故其を綴りて寄稿する樣告げなば水の藥小說には遙かに優りて面白く可笑く貴き事の數々出で來り此上もなき樂の料となるべし利益亦多からん人間創生の紀事も大害して版權を取り置きしならば猿の系圖話中に編入されもすまじきものをされば子孫は父祖の爲め己れは己が爲め躊躇する者はあるまじけれど世に示すべき事多くは有らず雜誌の餘白狹きを憂へされ此の事尙ほ世に例なし宇治の先鞭を若け賜へ　伊豆下田　山梨尙白生

交論

●一老人　鼠の出入の所ろにはコンニヤクか、栗のイガか、ニンニクの類を入れ置くが宜しひでしやう、張帘を破るのには糊に砒石を混ぜて用ひたらばと思ひ升が未だ試驗しませぬ故お答へいたし惡う御座い升。

●相生　池袋濟風大人に添削を乞はるゝには本社を事務所にする東京案山子の家女舍中に御入舍あれば宜しひでせう。

●本鄉一書生　万國歷史の譯書は天野爲之氏の著が宜しひでせう。速記法獨習には林茂淳氏の著で敬業社にあるのが宜しひでせう。法律獨習には矢張り所々の法學校の講義錄をお用ひなさい。大坂島の內生のお問も此でお答になりませう。

●神谷二郎君　本鄉サマリタン會の事、同會事躰の事は前號の本誌にも廣告があり升した、本鄉のは高田耕安、萩野ぎん、遠藤鐵太郎、吉池土三郎、栗田昇の諸氏が治療委員です。

●遠藤氏　子供にお讀ませになるのには、蠣殼町一丁目四番地から出る「喜の音」か、教育社から出る「子供」が宜う御座い升。

●一信徒　プリモース、プレスレンは英國人プラント氏が渡來してより初まりました、今は信徒十五六人位在る相です、少し伺ひますに、中々分つた教へで餘程感服すべき所ろが在ります、他の新聞雜誌で惡口めいたとを言ふのは殘念の事です、兎角精しく聞いて見た方が宜しひです。

時事

女子高等師範學校長

中村敬宇先生を訪ふ

挨拶も畢り、雜談も途切れしとき、扨て先生は元と女子師範校の長にて坐はせしが、后ち十餘年を經て今ま復た其校長と爲らせらるゝは因緣淺しとせず、女學の爲に深く之を祝すと申せしに、

然り、最初は明治八年より十二年迄五年間其任に當りしとあるが、此度の復職に付きては去年の六月比より榎本大臣辻次官などより度々委賴あり然し思ふ所ろと事情とあつて今日迄に延引せしが、遂に此度之を擔當するに至れり、然し就職后昨日にて僅ほ二度しか學校を見舞はらず明日は元老院が閑ゆへ歸途亦た立寄らん心構へなり、左樣の次第ゆへ未だ少しも事狀を悉さず、お話しすべき事もあらざれど追々には亦た精しくお知らせすべし

余は、横井小楠翁の事を語り、且つ象山に對する先生の意見を叩き、遂に亦た學校德育の事に及べり、先生云く、

人間以上に大ひなる者あるとを信ぜざるの德育は力極めて弱はし、假し夫にて可成の德育を爲し得るとも彼の天に大

能力者あることを信ずるの德育に較ぶるときは到底相並ぶべきものにあらず。

余も此點に付きては意見を同ふすることを述べ、理學的德育なるもの丶甚はだ微弱狹隘なることを述べ、孔子、佛、基督を比較して、孔子の天を崇敬する所ろ甚はだ基督に近く、佛と大懸隔あることを述べたるに、先生も之を然りとし、且つ、

佛教の事は少しづ丶調ぶれども未だ精しくは知らず、然し三の教、共に尊重すべし、些々たる人間が易々しく之を輕重するは至つて愚かなることなり、學校の德育に於ては加藤弘之氏の所云る何如なる宗教をも共に學校内に布教せしむるの策甚はだ面白し。

と述べ語氣漸やく高し。余はよし然る迄に至らずとも切めては學校は宗教の事に關係せず、生徒をして自由に其好む所ろの教會寺院に參詣せしめ亦た自由に校内に於て之を研修せしめたしと述べたるに、先生も之を然りとなせり。斯て先生が嘗て譯述せられたる報酬論の事を申出で、談エマソンの評に及び、余は切りに同氏を敬愛する事を述べたるに先生亦た甚はだ之に贊し、彼の報酬論の如きは全然易の理に同じきものありと論ぜらる、而して氏が著書の事に付て尚ほ種々の談話を申述べたる間だに、時々同人社の事を語り、余が兄の事を語り、且つ前后三回迄で太田生の事を語り出でらる。

抑も此太田生の姉妹は、初め先生の紹介によりて余が管理する女學校に來りしものなり、以后すでに五年を經ると云へども、先生に會する毎に未だ一回も談の此の生の事に及ばざることあらず、云く、

伊豆は私が父の出生地にて、私の知人親戚も少なからず、彼の子二人は私が舊門生の姪なるが、初め私の所ろに置き呉れよと申したれど、迚も効能あるまじとて貴君に賴みたるに、今日は左樣に善くなりしとの事、實に喜びの至りなり、私も舊古鄕に對して顏面あると云ふもの也、休日には折々來るやうに傳へられよ。

語氣醇朴、愛和の相溢る、余が辭して戸を出んとする時も尚ほ其事を話さる、嗚呼今后の高等女子師範校生諸君は、此の深愛高德ある校長を得玉ひたり、余は諸君の爲にあつく之を祝するもの也。

師範校女子部内の基督信徒

同女子部内に七八名の基督信徒あり、外に七八名の有志者を加へ、十五六名の同志者其舍内に於て聖經を輪講したることあ

るよし也、然るに貴女之友記者は業々しく之を記載し同校內に非常の不取締あるやうに言張り、敎育報知記者亦た之れを莫大に言張り各地より飛報ありとして一層業々しく記載したり、故に吾人は第二百五號の紙上に於て少さか之を辨じ且つたとひ信徒を出すとありとするも何の差支へもなきとを論じたり。然るに其後同校幹事は貴女之友に正誤を申命し貴女之友は其儘に之を正誤したり。元來同校の規則として生徒が公衆會集の所に詣るには必らず保證人の同行を要するの定めあり故に生徒が單獨敎會に行くとを制すれども保證人と同行するに於ては何の制限もなきとの由し、左あるべきとにして目下頗ぶる當を得たるの處置と云ふべし、凡そ佛敎徒たるにせよ、神徒たるにせよ、基督敎徒たるにせよ、生徒をして當に其信ずるが儘に在らしむるは當然の事也、左るを校中數人の基督信徒ありとして非常に之を攻擊する者の如きは、吾人その何の意たるかを知るに苦しむもの也。

慈善家モリス氏夫婦

米國フヒラデルヒヤの豪商モリス氏は、熱信なるクエーカル派基督敎信徒にして、年來篤く慈善事業に盡力し、身フヒラデルヒヤ鐵道會社の支配人にして家に巨万の富を積むと云へども、能く集めて亦至つて潔く散らし、大凡そ救濟の事、敎育の事、傳道の事等にして多少氏が助力せざるもの少なきほどなりと云ふ、日本人にして彼の都に居留したるものは皆な厚き世話を蒙むり、社友太田稻造、內村鑑三、渡瀨莊三郎の諸氏は皆な親密に往來したり、然るに此頃ろ日本の傳道事業を視察せんとして來遊あり吾人は在獨逸太田君よりの紹介によりて之に面會したるが、風采淳朴質實にしてたへて富豪の躰なく、一意誠眞に道の傳わるとを熱禱せらるゝが如し、吾人は吾社友の熟知己あるが故に宛から舊友に會の心地し、本卷第一頁に右モリス夫人の肖像を揭げて讀者に紹介すと云ふ。

○怪文字

「日本」の評林は、たとへば霞のたへ〲に芳野万朶の櫻を見る心地し何にとあく面白きとなるが、此頃は忙がわしき爲に少しの間之を見ざりき、然るに近日左の如き投書ありたり、

前畧、陳者廿六日の「日本」紙上評林內に左の詩を讀む

○半嚴雲　巫峽春樵

數傳綺話上新聞。統率多情娘子軍。徒信花唐十字敎。却排禮樂六經文。
懸河辯舌說禁妓。墜地名聲深惜君。蓬島夢中神女現。巫山竊取半嚴雲。

評云。瑤宮鎖在白雲中。咫尺桃源自是通。却笑仙槎徒覓藥。孤帆幾度孕長風。

右に由て小生は君が平生女學紙上に於て論せらるゝ天使的の御議論と相矛盾するな疑ひ足下若し中に疚しからさあるらば平生の如く女學紙上に於て明白御辯駁余等の疑團を晴されんとを然れども"if man confess his sin, then he will bepure"と云ハゞ吾人亦○を推して言わざるまじ

則はち余が事を言ふもの丶如く、亦た島田君の事を言ふもの丶如く漠として分明ならず、一日島田君に會して之を語る、たゞ共に今の文學の爲に洪歎大泣するあるのみ、夫れ此詩眞とに余が事を詠ずとせんか亦た辨ずるの價値もなし、たゞ余は其吟客に交はり少さか平常思ふ所ろを告げたく思ふのみ。

○新聞帋の不德

不德文學極めて惡むべし吾黨近日堂々旗幟を立て丶之を擊破せずんばある可らざる也、此頃の繪入自由新聞に府會議員須藤時一郎氏（の事と思はる丶人）の孃君の事を惡評せしものありと、然るに須藤君には未だ孃君の在さざるよし也、彼の讀賣新聞に揭載したる女生にして現に其學校に居らざるものあり、「日本」にドクトル某と記して其人あらざる如きとあり、新聞帋は果して事實を記するものなりや、想像を記するものありや、若くは虛構の說を記するものありや、之をジエフハソンに質さゞるを得ず。

○咄々怪事

今の時に當り如此き怪報を傳ふ、万一實に之れ有りとせば咄々大怪事と云ふべし、日本に云く

筆鋒の鋭きこと殆ど近衛兵の如き觀ある新愛知に咄々怪事と題したる一怪事あり眞乎虛乎固より知る限りにあらざれど名古屋の周旋紳士は如何に無智曚昧なればさて奇怪なり不埒なりと絶叫し筆太く記したる事項は他にあらず各大臣の滯在中に絡仕又はお側の御不自由を察し藝妓を侍せしむるの計畫にて一大臣に二三名づゝ各旅舘に配當するよし畏くも　天皇陛下には親しく櫛風沐雨の勞を執せられ大演習に御奔走遊ばさるゝに大臣として却て旅舘の無聊に賤陋女子を弄するが如きことあるべしとも思はれず云々吾輩も亦た此の如き奇怪事ありとは思はず謹嚴なる大臣は必ず斯る周旋紳士の周旋を擯斥さるゝや疑なし。

ワシントン、エルリントン等の戰に臨むや、先づ靜默謹虔、伏して神前に祈禱せざるとなし、抑そも今の武人大臣と幾干の相違ぞや、況んや陛下は櫛風沐雨の間だに困苦遊ばされ、四万の兵卒は悉とく半ば死する迄に至るの間だに於てをや。

○日本の婚姻に對する英國法庭の判決　在倫敦　植村俊平

本月八日英國高等裁判所にて英國臣民と日本婦人と日本に於て全く日本法律の儀式に據て結びたる婚姻の効果を審理し之を有効と認むる事を判決せり抑も從來歐米諸國にては婚姻は宗教上の制度と見做すの習慣にして法律を以て之に多少の例外を設くるも未だ一般の習慣思想に變更を見ず且其法律に認むる婚姻は必ず一夫一婦の性質を要するを以て苟も此性質を缺くものは世人呼て婚姻と云ふも法庭は然りとなさず單に男女の遇合と見做せり故に英國法庭は年來英國臣民と耶蘇教國外の婦人と婚姻するに當り耶蘇教の婚姻式を用ひざるときは其婚姻を承認するとを躊躇し且其婚姻にして一夫多婦の性質を含むの嫌疑あるときは嚴に之を排斥して有効の婚姻と見做すとを許さゞりしなり

然るに今回日本婚姻に對して英國高等裁判所判事の判決は新に判決例を定めたるものにして英國法律を論ずる點より觀るも亦將來日本人と英國人と互に婚姻するに當り其効果如何を知り得たるの點より論するものに注意すへきものなり而して今回英國法庭が明に日本儀式の婚姻を承認して之を完全なる婚姻なりと宣言したるも從來英國法庭の固守する原則を變じたるにあらず只舊來の原則を新しき場合に適用したるのみなり勿論日本人より見れは英國法庭の判決は當然至極にして更に其當否を論ずるを要せず若しも誤て反對の判決を下したらんには尤も怪訝に堪へざるべきものなりしなるべしされとも英國にては少しく耳新しき事件なれば新聞紙等にも評論を見たるなり其要領はタイムス新聞の社說に之れを論じて正當なりと云ひ滿足の意を表したるの旨意に異ならずと謂て可ならん此事件に關する法律上の沿革を知らんと欲する者は請ふ幸に余が法律協會雜誌に投じたる論文を見られよ。

○正誤一片

本日の女學雜誌二百六號論說の註に「前橋邊にては紳士の宴會に藝妓を聘するの風全く止む」と記載有之候へ共何等かの間違と覺へ候當地にて有志家の政治上の懇親會などには酒を廢し藝妓を招かざるやうに相成しと覺へ候へ共一般の紳士社會には依然として（申すも殘念ながら）藝妓を聘するの風滅じ申さず候斯くの如き事申上度くは無之候へ共平生確實の貴紙上に誤報ありてはと存じ殘念ながら申上候尤も紳士社會も追日公然たるものも隱然たるやうには傾くありさまに御座候　廿三年三月廿九日上毛前橋にて先生の御承知ある一青年より

群馬快報

（貸坐敷所在地十ヶ所の中、新町、安中、妙義の分は本年九月卅日限り廢止す但し他に轉業の目的なくして貸坐敷所在地へ轉居繼續營業を爲さんとする者に限り特に允許を與ふることあるべき旨三十一日縣令を以て布達す）。

廢娼記事

壯年義會　今五日校厚生舘に開く廢娼演說會には內山定、土岐善靜、黑岩大六、等の諸氏演說せらるべし、大江卓氏は病氣にて欠席の由遺憾なり。

東京廢娼會　今后の運動法に付明后日主なる人々の相談會を開かるゝよし。

奈良の衛生會は去五日存娼演說會を開きしよし。

德島の衛生會も亦た同病院內にて公娼存廢に付討論會を開き遂に議決するに至らざりし由。

函館の衛生會も廢娼の事に付討論會を開きしに甲是乙非容易に決しがたく遂に次會迄で延ばすとにしたり。

廢娼建議○會呈出地方

福井縣。神奈川縣。埼玉縣。岡山縣。栃木縣。新潟縣。山梨縣。愛知縣。宮城縣。群馬縣。

廢娼議決縣會

群馬縣。埼玉縣。宮城縣

廢娼會、及廢娼運動の會

日本廢娼同盟會（東京）。廢娼壯年義會。東京廢娼會。山梨廢娼會。兵庫廢娼同盟會。防長廢娼同盟會。大和廢娼會。名古屋廢娼會。鎭西廢娼會。日本娼妓全廢會（福井）。高知廢娼會。富山廢娼會。越後廢娼會。柳川廢娼會。西京廢娼會。高田青年會。上毛青年連合會。神奈川青年會。伊豫松山青年義會。盤城平青年會。婦入矯風會。栃木富山村攻學會。岡山中國基督教青年會。久留米青年縱横會。鶴岡私立莊內學事會

女報

●女子高等師範學校長　元老院議官從四位文學博士中村正直氏は去る二十六日女子高等師範學校長を兼任せられ奏任官一等に叙せられたり。

●神田高等女學校は角田眞平、禮家小笠原氏等の盡力にて仲猿樂町二番地に設立せらる、其目的は貞淑順良にして有用なる女子を教育するとにある由にて、學科に本科專科の二あり、本科は三年なるよし、本科には英學なく、別科には英學、畫、切組細工等あり。

●東京禁酒會　アッケルマン孃働らきの結果として東京禁酒會なるもの出來、去廿九日發會式を擧ぐ、中川永輝氏（通信書記）、池田次郎吉（記錄書記）、土井採吉（會計）、潮田ちせ（女子部通信）佐々城とよ壽（會計）等の役員を定め、同日安藤太郞、ソーパル兩氏演說ありき。

●成立學舍女子部の第二回卒業證書授與式並に第三紀年會を去一日江東中村樓に開かる、諸氏の演說神辭等の外に加藤弘之氏の演說あり、卒業生左の如し、

本科卒業生

禿眞子、●村つれ子、大井幸子、早川ふみ子、小原直子、竹井弓子、永安ゑい子、山中いさ子、長沼きん子

撰科卒業生

中厚蝶子、關たま子、山寺正子、四屋孝子、横井初子、横田つや子、島田しげ子、依田珠君子、寄地千枝子、吉村律子、岩村都子、竹內千世榮子、廣瀨のふ子、四屋てい子、杉岡きく子、

●跡見女學校に於ても明日卒業式あるべし委細は次號に記すべし。

●高等女學校の卒業式去二十九日に有之、演說、文章朗讀ともに常ならぬ出來にて甚く皆な感服せり、卒業生は本科生に北村さし○宮崎えい子橋本やう子所叶ふか子西たつ子吉武なつ子藏井じゆん子增岡なしへ子渡邊しゆん子横田やう子、土岐さくえ子中村されし子の十二子。撰科に大島ひさ子安井はるえ子田邊たつ子西岡さきの四氏。專修科に柳田てい子西村だい子矢田部じゆん子の三氏なり。

●加藤きん子　曩に師範校より遣はされ米國に留學し過月歸朝したる同氏は此度內務省の武田英一氏に嫁し去一日紅葉舘に於て其披露ありたり。

●アッケルマン孃の東海道旅行　三月廿五日午后七時より伊豆三島町基督教會堂にて禁酒演說を爲し頗る盛會なりき○廿七日午后七時より靜岡市硎屋町千鳥座に於て禁酒演說を爲す聽衆千五百餘名沼津教會の米山定昌氏開會の主意を述べ小林光泰氏禁酒と節酒との演題にて說き次にアッケルマン孃は井上レツ子の通譯にて演說されたり此演說は聽衆に非常に感動を與へたり午后十時頃閉會せりアッケルマン孃は廿八日十二時廿五日發車にて濱松へ赴かれたり同行は小林米山井上夫人外數名なりさ云ふ。

週報

○官令　三月二十五日勅令第四十五號を以て師團司令部條例中改正の件同四十六號にて近衛條例を廢し近衛司令條例制定の件同四十七號にて陸軍教導團條例を裁可公布せらる●廿六日法律第二十三號にて陸地測量標條例勅令第四十八號にて文官試驗委員官制の改正四十九號にて臨時建築局を廢し其事務を內務省の管掌に屬せしむるの件を裁可公布せらる●廿七日勅令第五十號にて各省官制通則の改正同五十一號にて陸軍省官制の改正●廿七日法律第廿四號にて紙幣交換基金特別會計法同廿五號にて鑛店銀行紙幣交換基金特別會計法同廿六號にて官立學校及圖書舘會計法勅令五十三號にて官立學校及圖書舘會計規則同五十四號にて朝鮮國貿易に關する船舶出入及貨物積卸の件同五十五號にて北海道官有未開の土地拂下貸下に關する件●同五十六號にて近衛師團監督部條例同五十七號にて陸軍司計部條例同五十八號にて陸軍被服條例同五十九號にて陸軍經營部條例同六十號にて陸軍獸醫部現役士官補充條例同六十三號にて軍馬育成所官制同六十二號にて試補及判任官見習竝非職休職の官吏にして一年志願兵たる者服役の件同六十三號にて鎭守府條例中改正の件同六十四號にて海軍兵備品會計規則同六十五號にて海軍被服條例及ひ明治二十三年度歲入歲出總豫算追加の件東京郵便電信學校經費豫算の件明治二十三年度大藏省所管造幣局、印刷局、官設鉄道、廣島鑛山、陸軍省所管東京砲兵工廠、大坂砲兵工廠、千住製絨所、海軍省所管鎭守府造船材料資金、農商務省所管富岡製糸所、遞信省所管電信燈臺用品製造所特別會計の各歲入歲出豫算等を裁可公布せらる同日勅令六十六號にて府縣委托金を地方税經濟に移すの件を裁可公布せらる同日法律二十七號にて陸軍給與に關する委任經理の件勅令六十七號にて陸軍給與令を裁可公布せらる

○宮庭　二十五日天皇陛下樞密院へ臨御●廿八日天皇陛下尾州へ御發輦あらせらる

○政治　廿五日內閣臨時會議は山縣、西鄉、山田、松方、大山、榎本、後藤、青木、岩村の各大臣參集せり●廿七日大山大臣を除くの外各大臣は登閣して會議を開けり

○彙報　去る一日より博覽會開場せらる

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に涉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達善良なり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地　東洋英和女學校

廣告

女生徒募集廣告

本校ハ小學高等科卒業ノ女子及ビ之レニ齊シキ學力ヲ有スルモノニシテ尚ホ高等ノ學科ヲ脩メント欲スル者ノ爲メ設クル所ニシテ順良貞淑ノ美德ト家政上着實ノ材能ヲ養成スルヲ主トス且ツ小學校ト連絡密接セン爲メ付屬幼稚園ヲ置キ德育智育體育ヲ兼脩セシメ温良ノ兒童ヲ撫育セントス但四月一日ヨリ開校ス學科細目ハ當校事務係リニ就ヒテ看ルベシ

神田區中猿樂町貳番地

私立神田高等女學校

本院從來ドクトル、ホ井トニー氏ヲ聘シ眼科專門ニ治療致居候處今般仝氏ノ他更ニ**内外醫學士**諸君ノ出張ヲ乞ヒ眼科ハ勿論諸科ノ患者ヲ診察治療ス特ニ婦人小兒科ハ米國醫學士岡見ケイ子之ヲ受持タル病室ヲ取擴ゲ諸科ノ患者入院療養ノ望ニ應ス每月多數ノ施療劵ヲ頒布シ貧困者ヲ施療ス

診察時間 每日午后二時ヨリ 但日曜日休業

赤坂氷川町十七番地　赤坂病院

通信女學 **講義錄** 第壹卷

三月三十日再版　價金三十二錢　全國一般無郵稅

東京麴町區富士見町二丁目一番地　女學雜誌社

●注意せよ

日本授產館は創立滿三周年期の祝意を表する爲め今回傳習有志者へ大便益を與へ傳授謝金を大に割引せり此際傳習する者は再び得られざるの大利益を享るものなり●期限に遲れて後悔すること勿れ

右大便益大割引の詳細は今回改正せし規則書に詳なり望の者は切手貳錢を送らば迅速郵送すべし

東京神田末廣町十番地　日本授產館

館長　野上三省

遞信省認可

明治女學校 新入生徒募集

四月十二日にて學期試驗了る、最下級及び各級へ向け新入生徒を募る。尙ほ此期より師範科を新設し、三年にて卒業とす卒業の者は小學校敎師たるを得るの資格を備ふ、右師範科新入の有志者は本校豫科二年卒業に相當するの學力を要す、但し本校最下級より就學するものは別に入科試驗を要せず合せて五年にして卒業するものとす。
各科新入望みの諸君は來る十九日迄に申込あるべし

東京麴町區飯田町三丁目廿二番地

明治女學校

交詢案內

（催促する勿れ委細に申來れ郵劵十錢送れ）

●雇ひたき方（甲）

二一	中働	年齢廿五才にして一ト通り裁縫の出來るものを一圓以上の給金にて雇ひ度處あり
二五	召使	十二才以上の小女にて實直なるものを給料一圓にて雇入度處あり
二七	小女	年齢十二三才にして少しづゝ勉強の出來る御宅に無給にて小間使に雇ひ度ものあり

●雇はれたき方（乙）

二四	奉公	年齢廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし
二五	裁縫	裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御內に敎師に雇れたし
二八	奉公	普通小學科卒業の者にて（年齢二十二才）産婆業を營まるゝ基督信徒の家に無給にて雇はれ餘暇に産婆術を學び度ものあり
二九	奉公	年齢十四歳にて基督敎信徒の家（可成は西洋人）に雇はれ度もあり尤も普通食料小使仕着等一切持參致すに付き毎日四五時間英語學の脩業致したし
三五	奉公	年齢十五才の高等小學卒業生にして餘暇に勉學の出來候御宅へ雇はれ度ものあり但し給料は望みなし
三六	敎師	數寄屋橋內東京唱歌會卒業生にして何れの學校にても唱歌の敎師に雇はれたし但し年齢廿才にして給料は何程にても宜し
三七	奉公	毎日三四時間勉強の出來る女學校又は中以上の官員の御宅へ無給にて雇はれたきものあり
三八	召使	身元慥かなる十三才の小女にして堅き御內へ小間使に雇はれたし但し餘暇に筆を敎授せらるれば給金に望なし

○婦人白標倶樂部記事

○明治廿三年一月四日在京都淸水豐子入會す○同四日本部に於て委員會を開く○同十六日外務大臣秘書官赤羽四郞君より本部總代を召喚す同十八日總代佐々城豐壽、潮田千勢、工藤さの、相良龍、外務省官舍に於て外務大臣靑木周藏君閣下より曩に本部總代等が捧呈せし書に對し英國女皇陛下よりの勅答を拜受す○二月十日本部の懇親會を開く○廿三日萬國婦人禁酒會より派遣されたるミッス、ゼッシー、エーメニア、アッカーマンを新橋停車場に馬車一輛を雇ひて迎接す○廿六日築地采女町精養軒に於てミッス、アッカーマンの歡迎會を開く同廿八日厚生館に於て演說會を開く○三月七日委員會を開く同廿日厚生館に於てミッス、アッカーマンの送別會を開く來會者二百四十名ブリユー、リボンの徽章を入會者に配與す日本古貨幣を記念としてミッス、アッカーマンに贈る同孃滯京中潮田千勢擔當接待す○三月廿九日英國女皇陛下に謝書を呈す同日特に祈禱會を開く

明治廿三年四月一日

婦人白標倶樂部幹事

定價

一册。	六錢	郵稅。五厘	（但府內無郵稅）
十册。	五十八錢	郵稅。五厘	（同前）
半年分	一圓四十三錢	府外は	一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は	二圓八十六錢

東京麴町區富士見町二丁目一番地

發行所 女學雜誌社

東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留

編輯兼發行人 巖本善治

東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留

印刷人 森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治女學校 新入生徒募集

四月十二日にて學期試驗了る、最下級及び各級へ向け新入生徒を募る。尙ほ此期より師範科を新設し、三年にて卒業とす卒業の者は小學校敎師たるを得るの資格を備ふ、右師範科新入の有志者は本校豫科二年卒業に相當するの學力を要す、但し本校最下級より就學するものは別に入科試驗を要せず合せて五年にして卒業するものとす。

各科新入望みの諸君は來る十九日迄に申込あるべし

東京麴町區飯田町
三丁目廿二番地

明治女學校

交詢案内

（催促する勿れ郵券十錢送れ委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

二一	中働	年齡廿五才にして一ト通り裁縫の出來るものを一圓以上の給金にて雇ひ度處あり
二五	召使	十二才以上の小女にて實直なるものを給料一圓にて雇入度處あり
二七	小女	年齡十二三才にして少しづゝ勉强の出來る御宅に無給にて小間使に雇ひ度ものあり

●雇はれたき方（乙）

二四	奉公	年齡廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし
二五	裁縫	裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御内に敎師に雇れたし
二八	奉公	普通小學科卒業の者にて（年齡二十二才）産婆業を營まるゝ基督信徒の家に無給にて雇はれ餘暇に産婆術を學び度ものあり
二九	奉公	年齡十四歲にて基督敎信徒の家（可成は西洋人）に雇はれ度ものあり尤も普通食料小使仕着等一切持參致すに付き每日四五時間英語學の脩業致したし
三五	奉公	年齡十五才の高等小學卒業生にして餘暇に勉學の出來候御宅へ雇はれ度ものあり但し給料は望みなし
三六	敎師	數寄屋橋内東京唱歌會卒業生にして何れの學校にても唱歌の敎師に雇はれたし但し年齡廿才にして給料は何程にても宜し
三七	奉公	每日三四時間勉强の出來る女學校又は中以上の官員の御宅へ無給にて雇はれたきものあり
三八	召使	身元慥なる十三才の小女にして堅き御内へ小間使に雇はれたし但し餘暇に箏雅を敎授せらるれば給金に望なし

○婦人白標倶樂部記事

○明治廿三年一月四日在京都淸水豐子入會す○同四日本部に於て委員會を開く○同十六日外務大臣秘書官赤羽四郞君より本部總代を召喚す同十八日總代佐々城豐壽、潮田千勢、工藤さの、相良龍、外務省官舍に於て外務大臣靑木周藏君閣下より曩に本部總代等が捧呈せし書に對し英國女皇陛下よりの勅答を拜受す○二月十日本部の懇親會を開く○廿三日萬國婦人禁酒會より派遣されたるミッス、ゼッシー、エーメニア、アッカーマンを新橋停車場に馬車一輛を雇ひて迎接す○廿六日築地采女町精養軒に於てミッス、アッカーマンの歡迎會を開く同廿八日厚生館に於て演說會を開く○三月七日委員會を開く同廿日厚生館に於てミッス、アッカーマンの送別會を開く來會者二百四十名ブリユー、リボンの徽章を入會者に配與す日本古貨幣を記念としてミッス、アッカーマンに贈る同孃滯京中潮田千勢擔當接待す○三月廿九日英國女皇陛下に謝書を呈す同日特に祈禱會を開く

明治廿三年四月一日

婦人白標倶樂部

幹事

定價	
一冊。	六錢 郵税。五厘（但府内無郵税）
十冊。	五十八錢 郵税。五厘（同前）
半年分	一圓四十三錢 府外は 一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢 府外は 二圓八十六錢

發行所 東京麴町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

遞信省認可

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY